

第2回 九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会 議事録

開催日時：平成24年6月2日 13:30~16:15

場所：九州大学箱崎キャンパス 創立五十周年記念講堂大会議室

会次第

1. 開会
2. 委員変更について
3. 第1回委員会の確認事項について
4. 他事業の事例紹介 《独立行政法人 都市再生機構九州支社》
5. まちづくりの課題と方向性（案）について
6. 質疑及び意見交換
7. 閉会

議事録

1. 開会	
事務局 (岡野)	<p>それでは、定刻になりましたので、開会に先立ちまして、事務局からご連絡申し上げます。</p> <p>私は、今回事務局を務めさせていただいております、九州大学企画部統合移転推進課の岡野でございます。よろしくお願いいたします。</p>
事務局 (林)	<p>同じく今回から共同で事務局を務めさせていただいております、福岡市の住宅都市局、九大跡地計画課長の林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (岡野)	<p>では、はじめに本日お配りしております資料の確認をさせていただきたいと思っております。本日お手元にお配りしている資料ですが、上から順番に、会議次第、座席表、資料1としまして委員名簿、資料2-1としまして委員会資料、資料2-2としまして委員会参考資料、資料3としましてUR都市機構様による他事業の事例紹介についてとなっております。</p> <p>皆様のお手元に揃っていらっしゃいますでしょうか。よろしければ次に進めさせていただきますかと思っております。</p> <p>本日の会議も、第1回の開催と同様、公開ということで行わせていただいております。本日傍聴される方につきましては、受付でお配りいたしました「傍聴にあたっての注意事項」に記載されている事項を順守していただき、委員会の円滑な運営にご協力いただきますようお願いいたします。また、携帯電話はマナーモードにするとか、電源をお切りいただくようお願いいたします。</p> <p>報道関係の皆様におかれましても、委員の皆様のご発言、議論、また一般の方の傍聴の妨げにならないよう十分なお配慮をお願いいたします。</p> <p>ここで、議事に移る前に、カメラ等での撮影の時間を取らせていただきます。報道関係者の方による前方に移動しての撮影は、この時間のみとさせていただきますのでご了承ください。それでは、関係者の皆さんよろしいでしょうか。前方への移動をお願いします。</p>
	(カメラ撮影)

事務局 (岡野)	ご協力ありがとうございました。 それでは、これより会議の進行は出口委員長にお願いいたします。
出口委員長	それでは、ただ今より、第2回の九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会を開催いたします。委員長を仰せつかっております出口です。どうぞよろしくお願ひします。 時間も限られておりますので、私の挨拶は省略させていただき、お手元の会議次第に添って進行させていただきます。本日の委員会では、まず第1回の確認事項の説明を事務局の方にしていただき、それを踏まえた上で、まちづくりの課題と方向性について、ご議論いただくことが本日のメインになっておりますので、よろしくお願ひいたします。説明の後にみなさまのご意見などを伺いたいと思います。 では、早速議事の方に入りたいと思います。まず議事の2番目にあります、「委員の変更について」、それから続けて、3の「第1回委員会の確認事項」、それから、4の「他事業の事例紹介」について事務局より報告及び資料の説明をお願いいたします。 なお、議事の2から4までは、事務局の説明を伺った後に、まとめて委員の皆様方の質疑等の時間を設けたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。 それでは、説明の方お願ひいたします。
2. 委員変更について	
事務局 (岡野)	それでは、議事2の「委員変更について」ですが、今回ご所属先の人事異動等により5名の委員の方が変更になっておられます。お一人づつご紹介差し上げますので、一言ご挨拶をお願いいたします。 それでははじめに、福岡商工会議所 専務理事 中村委員をお願いいたします。
中村委員	4月から専務理事をしております、中村でございます。よろしくお願ひします。
事務局 (岡野)	続きまして、財務省 福岡財務支局 管財部長 安部委員をお願いいたします。
安部委員	私も4月1日付で着任いたしております。財務支局 管財部長の安部でございます。よろしくお願ひいたします。
事務局 (岡野)	続きまして、福岡県 企画・地域振興部 副理事兼総合政策課長 吉岡委員をお願いいたします。
吉岡委員	私も4月1日付で、福岡県の総合政策課長に着任しております、吉岡でございます。どうぞよろしくお願ひします。
事務局 (岡野)	続きまして、株式会社日本政策投資銀行 九州支店長 鈴木委員をお願いいたします。
鈴木委員	同じく4月1日から九州支店長に着任いたしました、鈴木です。よろしくお願ひいたします。
事務局 (岡野)	続きまして、独立行政法人都市再生機構 九州支社 都市再生業務部長 福原委員をお願いいたします。
福原委員	私共も今年は4月1日になりました。例年だと7月だったんですけども、今年早まりまして4月になりました。福原と申します。どうぞよろしくお願ひします。
事務局 (岡野)	皆様ありがとうございました。変更委員の皆様方のご紹介は以上でございます。
3. 第1回委員会の確認事項について	
事務局説明	

事務局
(岡野)

続きまして、議事3の「第1回委員会の確認事項」を説明させていただきます。

はじめに、将来ビジョンを検討する上の前提となる、「九州大学の事業スキーム・スケジュール」について、お手元の資料2-1、第2回委員会資料に沿って説明させていただきます。

なお、説明している資料の該当ページを前方スクリーンに映してございます。お手元の資料と同じものですので、文字等映りの小さい箇所はお手元の資料でご確認いただきますようお願いいたします。

それでは、2ページをご覧ください。こちらは、第1回委員会にてお示しした資料を再度添付させていただいております。おさらいになりますが、九州大学キャンパス移転については、ステージが3つに分かれております。現在、第Ⅱステージまでが完了、工学系と全学教育系の移転が完了しております。今後は、第Ⅲステージとして、箱崎キャンパスに残る理学系、文系および農学系の学生を順次移転していく形です。

続いて、3ページでございます。こちらは九州大学キャンパスの統合移転事業の仕組みを表したものです。ペーパーの左下の部分には、伊都キャンパスの計画配置図が映っております。グレーの網掛けの建物が既に第Ⅰステージ及び第Ⅱステージにおいて整備が進んだ建物でございます。濃い青い色の建物が、今後第Ⅲステージにおいて整備予定の建物ということになります。

九州大学の統合移転事業の基本的なスキームとしてですが、キャンパス跡地の売却収入を伊都キャンパスの整備事業に充てるということとでございます。皆様ご存知かと思いますが、UR様に既に六本松キャンパスを売却済みでございまして、その売却収入につきましては、第Ⅱステージの施設整備に充てられております。

本委員会で検討いただいております、箱崎キャンパスの売却収入についても、第Ⅲステージの施設整備に充てられるということになっております。

続いて、4ページでございます。左側は、九州大学の第Ⅲステージにおける統合移転のスキームの部分でございます。先程、説明差し上げました通り、売却収入については第Ⅲステージの施設整備に充てられます。九州大学の方針として、その他の農場等も含む箱崎キャンパス跡地等の売却収入で（第Ⅲステージの施設整備費を賄う）ということになっております。先程の図がそのイメージを表しております。

一方、箱崎キャンパス跡地の売却時期についてでございます。基本方針の2つ目に書いております通り、工学系のエリア、既に移転を終えておりますエリアにつきましては、本委員会における提言を踏まえ、跡地利用計画、まあこれは仮称でございますが、跡地利用計画の策定後に、売却したいと。また、理学系、文系、農学系については、それぞれの移転の完了後に早期売却をしていくということとを考えております。

移転スケジュールにつきましては、右側の図に示しておるところでございまして、理学系が平成27年の秋頃、文系が平成29年の秋頃から、農学系が平成31年の秋頃に完了させる予定でございます。

箱崎キャンパスの跡地売却については、移転スケジュールに合わせ、それぞれのエリアの移転完了後に早期売却していくようになります。ただし、本委員会による最終的な提言を含め、想定されるまちづくりの手続きにつきましては、十二分に踏襲をして、実際の売却と調整を図っていくこととしております。それを表したものが、右下の図になっております。

また、昨年10月に新聞紙上でも報道されております通り、平成24年度概算要求において、理学系の施設整備費の計上が見送られております。皆様にもご心配をおかけしておりますが、この時の「文部科学省高等教育局長 通知」を、ご参考までに資料の左の下に掲載しております。この通知の中には、東日本大震災への対応に加え、「箱崎キャンパス等の処分の見通しが明らかになっていないこと」が、概算要求の見合わせの一因となっており、本委員会の皆様にご議論を深めていただけることが、九大の伊都キャンパスへの円滑な移転に繋がっていきますので、是非とも本委員会での活発な議論をお願いしたいと切に思っております。

続きまして、前回委員会においてご質問がございました、九州大学の資産について簡単に紹介申し上げます。資料は、資料2-2、参考資料の3ページでございます。

	<p>箱崎キャンパスにおける近代建築物についてでございます。資料には、主な建物の写真を図面の中におとして、掲載させていただいております。</p> <p>ご報告させていただきたい内容は、図面の右下の四角囲みの中に記載しておりますが、「九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査ワーキンググループ」の立ち上げをしております。このワーキングにおきましては、この近代建築物に対して、評価の方向性を付与するという事で、ワーキングを重ねております。スケジュールにもございます通り、第5回の8月中旬を目標にとりまとめを予定しているところでございます。外部有識者も交えた客観的なデータとして、本委員会にその内容を還元させていただき予定としております。その際に、再度詳細なご説明をさせていただきたいと考えております。</p> <p>続きまして、資料の4ページをご覧ください。こちら箱崎キャンパスにおける主な樹木についてでございます。位置図と写真を掲載させていただいております。箱崎キャンパスにおける樹木の本数は、約4、400本。内26%にあたる1,150本がカイヅカイブキ。26%にあたる1100、失礼、20%がマツで900本です。その他、サクラ、ケヤキ、イチョウ、その他の樹木がこのキャンパス内にバランスよく配置されているところでございます。</p> <p>続きまして、資料の5ページをご覧ください。こちらが、あの少し注釈を入れて、緑地の位置と樹木の説明を入れた資料でございます。緑地の色塗りをしておりますので、割合が確認いただけるかと思っております。樹木につきましては、いまのところ、近代建築物のような別途の調査までは予定しておりません。委員の皆様には、樹木の種類と樹木の位置及び緑地の範囲を、この資料においてご確認いただきまして、ご議論の参考にしていただければと、(資料として) 出させていただいております。</p> <p>以上が九州大学に関連する資料の説明でございました。で、6ページ以降は、福岡市九大跡地計画課 林課長に説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (林)</p>	<p>続きまして、6ページからの説明を私の方からさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。6ページ目には、「土地の価格変動」ということで、九大跡地キャンパス周辺の価格動向を10年間載せてございます。上の青囲みの赤字で書かれていますように、九大の箱崎キャンパス周辺の現時点での地価は、住居系で10万円前後となっております。で、毎年2、3%ずつ地価が下落しているような動向がみてとれます。地点の方は、右の方に載せておりますので、丸を公示地価、三角を基準地価ということで、マップとともに載せておりますので、ご参考にしていただければかと思っております。</p> <p>続きまして、地価の参考として、7ページをお開きください。こちらには、東区辺りの地価の動向として、千早、香椎というのを左下に載せておまして、アイランドシティというのを載せております。で、また左の上側ですけれども、今年イケアが進出してきた新宮中央駅周辺でございますけれども、その辺りの土地の動向も載せております。</p> <p>いずれにしましても、若干下がり気味ということと、で、あと新宮の方は土地単価がかなり安くて、まあ5万ぐらいというふうな状況でございます。ちょっと比較の材料にと思ってと載せさせていただいております。</p> <p>続きまして、8ページをお願いいたします。8ページにつきましては、箱崎中学校、あとは福岡県立図書館ということで、こういった施設をもってこれないのかという議論もございましたので、今の施設の状況についてのみ客観的なデータを資料にさせていただきます。箱崎中学校を左側に載せておりますが、施設の概要としまして、校舎は昭和40年に建てております。築40年経っておりますが、22年度に耐震改修済みでございます。耐震上は問題ないという状況でございます。で、また講堂兼体育館というの、昭和50年に建てられて37年経っておりますけれども、これも耐震補強済みというところで、建物的な問題は特に無いような状況でございます。右にいかせていただきまして、県立図書館でございますけれども、この(3)の施設概要をまた少しご紹介させていただきますが、建設年度は本館が57年度、築30年。で、別館が昭和56年建築で、築31年というふうな状況で、耐震の診断をして、耐</p>

	<p>震改修も必要なしというような診断結果が出ているような建物でございます。</p> <p>続いて、9ページをお願いいたします。9ページには航空騒音の状況を載せております。少し専門的な言い方になりますけれども、これは騒音の指数というのが、WE値といわれる、加重等価平均感覚騒音レベルというものになっておりまして、これはページの上に載せておりますけれども、「注」で載っています。WECPNLという表現なんですけれども、これは単純なデシベルという、短期的なことじゃなくて、全体を表すこととして、夜間とかの騒音とかにも大きく聞えるというような影響も踏まえて、評価された数値となっております。で、あの環境基準というのが、WE値と呼ばれるものが、箱崎周辺の住居系でいきますと、用途地域が2種住居地域でございますので、下のⅡという地域の類型に分類されます。で、この部分でいきますと、75以下という基準値があるんですけれども、箱崎のここの航空機の侵入路、直下の部分で1を超えているというようになっているという状況、以上でございます。</p> <p>続きまして、10ページ。10ページには、「航空法による高さ制限」が書いてございます。で、こちらは航空機の旋回飛行や離陸の安全を確保するために、空港近くの建物の高さを規制しているというものでございますけれども、水平平面という右のピンク色の色で塗ってある部分が、福岡空港の滑走路中心部から4km、この4kmが水平表面といたしまして、54mに高さが規制されているというふうなところなんです。で、このエリアの中に博多駅エリアが含まれます。そして、九大の跡地はどうかといいますと、図面で見ても分かるように、60mから80mの高さの建物は建てていいというようなエリアになってございます。で、同じような地域で天神周辺が60mに規制されておりますので、そこよりも少し高い建物が建つという状況でございます。</p> <p>続きまして11ページのところから。第1回の委員会でも意見が出ていました、東京圏のバックアップ機能の検討状況について説明をさせていただきたいと思っておりますが、今回福岡市役所の方で、この関係の業務を担当していただいております、総務企画局長の貞刈局長が委員としてお見えです。で、ここから11ページから14ページの頭回りまでを、貞刈局長の方にご説明をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。</p>
貞刈委員	<p>貞刈でございます。</p> <p>前回の会議で、東京圏の中核機能のバックアップ機能をここにもたしたらどうかというようなご意見が何人かの委員さんからありましたので、簡単に整理をさせていただきました。</p> <p>まず、11ページでございますけれども、国土交通省の検討の状況、とりまとめの状況をまとめております。地震以降、色々な議論の中で、東日本大震災復興構想会議、それから国土審議会の方でも、東京圏の機能をどう分担し、あるいはバックアップしていくかの検討が必要ということで、東京圏に存する中核機能の継続が何らかの原因により不可能となる事態が発生した場合にも、これを代替する機能、バックアップ機能が働くこと、そのバックアップについての基礎的な検討を行なうということで、国土交通省の方で「東京圏の中核機能のバックアップに関する検討会」というなかで検討されています。</p> <p>24年4月5日に二次とりまとめが行なわれておりまして、そこで整理されました全体概要でございます。「検討の背景」についてはそこに書いてある通りでございます。</p> <p>Ⅱにつきましては、「本検討会の目的とスコープ」として、東京圏の中核機能のバックアップに関する基礎的な検討ということで、バックアップ場所として特定の地域を選定するなど具体的な検討は行わないということ。それから、東京圏の中核機能ということで、行政の中核機能を中心に検討すること。非常事態の発生原因については特定しない。そういうようなことで検討がなされています。</p> <p>Ⅲ番目に、「バックアップ体制の構築に関する論点と考え方」ということでございます。気になるところだけ申し上げますけれども、論点の1で、「何をどのような順序で検討すべきか」ということで、最初にバックアップすべき業務。それから、必要な資源等々。4番目に、バックアップ場所等の要件というようなことも含まれており</p>

ます。

論点の2で、「どういう業務をバックアップすべきか」ということで、危機対応業務と一般継続重要業務というような整理がされております。

論点の3で、「バックアップすべき業務の実施に何が必要か」ということで、指揮命令系統というのもございますし、要員としては、業務担当職員、民間サポート要員が必要である。施設、設備としては、業務に必要な施設、設備、重要な社会インフラ、ライフラインである。情報に関して、業務に必要な情報のバックアップ及びそれへのアクセス、インターネット情報へのアクセスの確保である。その辺も含まれております。

論点の4で、「バックアップの平時の体制はいかにあるべきか」ということで、そこに3つほど示されております。

論点の5で、「バックアップ場所等にどのような要件があるか」ということで、東京圏との同時被災の可能性が低いということと、東京圏との間のアクセスが容易かつ確実であること。それから、国の行政中枢機能の業務を非常事態下においても遂行できる能力を有する要員が確保されること、そういうことが諸々書かれております。

それから、今後の推進についてでございますけれども、この検討委員会、国交省での審議会の検討内容を踏まえて、政府全体として、速やかにバックアップ体制を構築するための実現プロセスを繋げていくことが必要と。政府一体となった検討体制の早急な立ち上げが必要というのが列記されております。あと、優先順位等についての記述がございます。

それで、12ページでございますけれども、左上の方に「東京圏機能バックアップの必要性」とありますが、このページについては国の考え方を踏まえまして福岡市として検討している内容を記載しております。

まず、必要性としましては、国のとりまとめを更にまとめたようなものでございますけれども、行政・経済の諸機能が東京圏に集中している。当然ながら、東京圏が被災した場合、日本の社会・経済活動等の機能、ひいては国民全体に大きな影響が生じる。そこで、東京圏域の機能の一部を分担できるよう、諸機能の分散やバックアップ拠点の配置が必要である。そういうことで、想定されるバックアップ機能ということを福岡市なりに考えてみますと、国等のデータを保存する機能、常時更新されるサーバ等の集積でございますとか、災害発生時の対策のための意思決定機能、あるいは、経済・金融機能、特に決済機能などの機能停止の影響が甚大なものについて、バックアップをする必要があるのではないかとということで、まとめております。

具体的な福岡市の取組み状況として書いておりますが、24年度に予算化をしております。事業の目的として、福岡市への誘致が考えられる機能やバックアップ先に求められる地理的条件への福岡市の適合性などの整理、検討。それから、東京圏バックアップ先としての福岡市の適合性について、国の関係機関や民間企業等に説明し、行政機能・経済機能を誘致する。

事業概要といたしましては、専門家への意見聴取を行いまして、福岡市におけるバックアップの重要性、福岡市として担える機能や地理的適合性の整理をしたいという考えでございます。それから、福岡の適合性の具体的な整理、必要となる空間ボリュームの検討など具体的なバックアップ実現方法、効果の推計等を行いたいと考えております。

その他関係機関との連携といたしまして、福岡経済同友会の方で、東日本大震災からの日本経済復興のための第二次提言を策定される予定と聞いております。同提言を踏まえて、経済機能を含めたバックアップの誘致に向けた検討をしたいと考えております。それから、県の総合計画審議会答申の中でも、24年5月、計画の基本的な考え方の一つとして、中枢機能のバックアップ体制の構築も必要と示されているところでございます。

右でございますけれども、特に福岡がバックアップに適している理由として、3つほど挙げています。一つが、「東京圏と同時被災の可能性が低いこと」ということがございます。東京圏と同時に被災する可能性が低いことが不可欠であり、また現実的

な判断要素としては、東日本大震災のように、広域巨大地震や津波、さらには原発事故との複合といった事態を想定する必要があるだろうと。2番目として、「一定規模の都市機能、経済機能を有すること」ということで、東京圏とのアクセスは確実である必要があるため、陸海空を活用して、複数ルート、複数手段を確保しうることが求められる。それから、可能な限り早期かつ低コストでバックアップ体制を構築する観点から、色々な施設が存在していることも重要な要件。3番目として、「東アジアとの連携を円滑に行なえること」ということで、東アジアにおける国家間の支援体制を整備することは有益ということ。特に、日中韓三か国が災害支援体制を確認して防災分野に関する情報共有、支援のあり方を検討していくこと。国の色々な資料等を取りまとめて整理していきますと、福岡がバックアップに適しているという理由として、今挙げたようなことがいえるんじゃないかと考えております。

それから、そこには書いておりませんが、箱崎キャンパス跡地利用の中でバックアップはどうかというお話でございましたので、その視点で申しますと、箱崎での東京圏域のバックアップにあたっては、次のような2つほどの課題が考えられるのかなという考えでおります。

一つは、先ほどもご説明がございましたけれども、移転費用をすぐにでも捻出しなければならぬという九州大学の事情からすると、国におけるバックアップについてのスケジュールが今のところまだ不透明であって、見通しが立てにくいのではないかとということ。

それから二つ目に、箱崎へのバックアップを考えた時に、福岡市も含めて、財政が逼迫している中で、その土地を誰が取得するのかということも課題かなというふうに考えております。しかしながら、そういった課題はありますが、箱崎キャンパス跡地の検討において、広域的な行政という観点からもバックアップは重要な視点であろうと考えておりますので、そういった論点を踏まえながら、今後この委員会においてご議論いただければというふうに考えております。

資料の13ページでございますけれども、最近の福岡市の取り組みということで、「グリーンアジア国際戦略総合特区」については、福岡県と北九州市と福岡市と三者で取り組んでいるところでございます。市の色々な取り組みについては、ここに書いてある通りでございます。

それから、ユニバーサルシティということで、これについては、国際ユニバーサルデザイン会議が10月に行なわれます。そういうものも契機にしながら、ユニバーサルシティ福岡を推進していこうということでございます。

それから、博多港の取り組みということで挙げておりますが、特に下の方に示しておりますように、「日本海側拠点港」ということで全国の中でトップで選定されております。色々な国際コンテナでございますとか、フェリー、RORO船、それからクルーズ船、国際定期船、様々な点で注目を浴びているということでございます。

それから、14ページの左に、福岡地域戦略推進協議会、福岡D. C. と呼ばれておりますけれども、そういうところで、東アジアのビジネスハブとしての福岡都市圏を目指していこうという取り組みを、産学官民で進めているところでございます。10年間の色々な目標を立てまして、それに向けて、色々な重点分野を設定いたしまして、今後ともしっかり取り組んでいきたいということでございます。

福岡市からは以上でございます。

<p>事務局 (岡野)</p>	<p>貞刈委員ありがとうございました。 続きまして、14ページでございます。岡野からご説明を差し上げさせていただきます。</p> <p>14ページ、左側の下ですが、「留学生30万人計画」ということで、これは文部科学省の取り組みでございます。「2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す」ということが、書かれておまして、これを念頭にしまして、九州大学におきましても留学生の受け入れを進めておるところでございます。23年11月現在で、留学生総数は、2078人いらっしゃいます。直近5年で1000人程増加しております。2020年には、その倍増となる3900名となる見込みでございます。</p> <p>九州大学の取り組みといたしまして、水素研究、次ページでございますが、風レンズ風車、それから有機エレクトロニクスといった新しい技術、特に新エネルギーの技術等、非常に活発に進んでおります。この説明は、詳しいご説明は省かせていただきます。資料を見ていただければと思っております。</p> <p>15ページ、右の下でございますが、やはり九州大学の取り組みとして、大学として人材育成が社会から強く求められている情勢があるということでございまして、「基幹教育院」というものが23年10月からスタートしております。100周年を機に、次の100年に向けて作り上げたものでございますが、一言で申し上げますと、グローバル社会において、真にリーダーとして活躍できる人材を育成すると。そのために、これまで以上に体系的で、幅広い、質の高い教育を実施する必要があるということでございます。ここにも記載されておりますが、「学び方を学ぶ」、「考え方を学ぶ」、そういった姿勢、態度を育成するためのものでございます。</p> <p>以上、文部科学省と九大が取り組んでいる事項の説明を終わらせていただきます。</p>
<p>事務局 (林)</p>	<p>引き続きまして、16ページになります。「国土の長期展望」ということでの説明です。と、これは長期ビジョン、今回のビジョンをつくる時に、国の長期的な見通し等もちゃんと情報として入れるというふうなことのリクエストに応えさせていただこうと思って、付けさせていただきます。</p> <p>ただ、色々と細かいところがございますので、概略だけ説明させていただきます。資料がちょっと小さくて見えにくいをお詫び申し上げます。</p> <p>では、表題としましては、「国土の長期展望」中間とりまとめ概要ということで載せておりますけれども、これまだ最終的なとりまとめは終わっておりません。中間とりまとめは23年2月21日に出ているものでございます。</p> <p>これにあたっては、国土の現況の中で、人口減少や少子化、少子高齢化、地球温暖化等の課題があるということ踏まえて、50年先はどうなるかというようなものを、推計されたものです。</p> <p>で、16ページの右下の方に、「我が国の人口は長期的には急減する局面にあります」ということで、2004年にピークを迎えたものが、2050年には、1億を大きく割り込んで、9500万人になるというようなものが出ております。</p> <p>で、17ページをお願いします。左上の方に、その9500万人の内訳が少し載っておりますけれども、これが、2050年に、約3300万人減少。25.5%の減少があると。それで、高齢化比率も2004年の20%から40%へ高まると。というような状況でございます。そのすぐ下の部分に、温暖化の話が出ております。2050年には、今より2度ほど気温が上昇するという予測が書いてございます。で、右上にいただまして、人口の減り方なんですけど、地域的にみますと、国土の大部分で人口が疎になっている。東京の集中が高まるというようなこと。東京都名古屋圏の集中が高まるというようなことが書いてございます。福岡、非常に見にくいんですけども、この資料ではちょっと減っているような具合で書いてございます。</p> <p>先に、次のページ、18ページをお願いします。こうした状況の中で、どういった形態の世帯が増えるかということ、単身世帯。特に、高齢者単身世帯が増加するというような状況が書いてございます。それから、右にいけますと、植生の変化が書いてありますけれども、最後に抜粋の部分として、右下の方ですが、これで出生率が回復するというのは、かなり大きく効いてくるよということで、出生率がフランス並みに回</p>

	<p>復することで、1億を若干切るぐらいにとまるというふうなことが書いてございます。</p> <p>長期展望の抜粋については以上で終わります。</p> <p>引き続き、議事の4として、他事業の事例紹介ということで、UR都市機構さんの方に資料作っていただいておりますので、UR都市機構の九州支社、財津チームリーダーの方からご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。</p>
4. 他事業の事例紹介について	
独立行政法人 都市再生機構九州支社 説明	
<p>独立行政法人都市再生機構九州支社 (財津)</p>	<p>それでは、私の方から資料3のペーパーでご説明をいたします。前回の第1回の委員会の中で、九大の箱崎キャンパスは広大な土地なので、整備費がどのぐらいかかるかとか、そういう目安が欲しいというご意見がございましたので、資料用意させていただきました。</p> <p>めくっていただきますと、まず大規模跡地利用転換の場合のまちづくりの流れということを表して、書いてます。大きくは、初動期、計画期、実現期、これ実施事業が進む時期、3つに分けました。初動期は、当然ながら周辺にあたる大きな移転計画が起りまして、そのために跡地利用の考えるまちづくり、を考えるそういう会議等が立ち上がってきます。計画期では、土地所有者、または行政、学識者、地元の方々に跡地利用の構想等を検討していきます。まさに、今のこの会議がこの段階だと思っております。その後なんですけど、計画期はこの跡地利用構想を策定しますと、跡地利用計画というのを具体的に策定していくこととなります。実際事業をやる段階になりますと、跡地利用計画に基づきまして、例えば都市計画の手続き、また、まちづくりを核とする地区計画等も検討されまして、道路、基盤の整備の実施や民間事業者の方々にですね、良好なまちづくりをしてもらうためにガイドライン等を作った上で、まちづくりを推進していくという大きな流れになってます。現在は、先ほどいいましたように、箱崎のこの委員会は、計画期の初動期にあたるかと考えております。</p> <p>それを次のページの2ページの方で、実際の具体的な開発事例の方でご説明をいたします。これは、あの東京の方の豊洲の方の2丁目、3丁目の事例です。左の方の上、パワポの字が小さくて見づらいんですけども、プロジェクトの経緯ということが、左上の方に書いてございますけども、まず、平成元年に、ここの敷地はIHI、石川島播磨重工業が持っている敷地が多かったんですが、平成元年にまちづくりの構想がスタートしまして、これがURが関わりましたのが、平成12年。実際、整備が開始しましたのが、平成15年という事業経緯を辿っております。その次のところに、その時の土地の所有状況を書いてますけども、IHIとか東京都とか江東区とかが土地を所有しておりました。53haほどございました。また、URが関わった以降、3番目に書いてますまちづくり方針というのが作られまして、4番目にまちづくり協議会、真ん中の左ですけれども協議会が立ち上がったという開発状況でございます。</p> <p>これから、先は計画段階に入ってまいりますけれども、具体的な事業手法の検討を行ないまして、6番目に書いていますけれども、真ん中の右端ですけれども、基盤整備と具体的な計画が立てられてます。この開発のポイントは、ちょうど真ん中の表を見ていただきたいんですけども、53haの地区を2つに分けまして、半分は、土地区画整理事業という都市計画事業で行ってます。で、右の方は、一般開発事業ということで行なっています。この組み合わせで53haを開発していくような計画でございます。</p> <p>具体的な実現期、事業実施の段階になりますと、当然ながら区画整理事業の実施を進めてまいります。また、まちづくりのガイドライン、民間事業者の方に良好なまちづくり、建物整備を行うためのガイドライン等を作りまして、これから先の民間事業者の方々が、建設していくということで、現在の状況としまして、東京ですので超高層になっておりますけれども、このようなかたちでまちづくりが進められているということでございます。</p> <p>最後のページにですね、前回のご意見の答えにはなっていないのかもしれませんが</p>

	<p>れども、私共UR都市機構が行っております、土地区画整理事業の中で、整備費がどのくらいかかったかということをもとめた表です。それぞれ地区ごとに地権者の数とか、公共施設の整備とか補償費とか色々なものがございまして、平均して、ヘクタールあたりいくらということは中々いえないんですけども、結果だけ見ていただければというように思っつけさせていただきます。</p> <p>辻堂という神奈川県藤沢市の物件ですけども、これは事業期間が4年間掛かりまして、権利者の方は4名、地区面積が24.6ha、事業費が104億円となっております、面積あたりの単価となりますと、ヘクタールあたりですけども、4.2億円かかっていることとなります。同じように、仙台市あすとにつきましては、事業期間16年、権利者の数304名、82ha、1136億円、(ヘクタールあたり)13.9億円の整備費がかかったということでございます。これはかなり特殊な例でございます、鉄道の高架の事業とか、色々な事業を行っておりますので、かなり整備費がかかったという状況になってます。あまがさきにつきましては、事業期間が8年、権利者の数が77名、地区面積が22.8ヘクタール、事業費が217億円、整備費はヘクタールあたり9.5億円ということになります。大阪駅北につきましても、事業期間が8年、権利者の数が3名、地区面積が8.6ha、事業費が83億円。ヘクタールあたり9.6億円ということで事業が進んでおります。</p> <p>具体的にはですね、それぞれの先ほどいいました補償費とか事業期間とか色々な要素がございまして、ヘクタールあたりどのくらいかかるのかというのは、言えませんが、一つの実例の事例としてご活用いただければということで、ご紹介いたします。以上でございます。</p>
事務局 (林)	<p>はい。ありがとうございます。財津リーダーどうもありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、第1回委員会の確認事項ということで、資料2-2と資料3の事務局からの説明を終わらせていただきたいと思います。もしよろしければ、委員の方から専門的な補足というところで、何か補足をいただければありがたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。</p>
出口委員長	あとで、ご質問されるそうです。
事務局 (林)	<p>はい、分かりました。</p> <p>では説明については以上です。出口委員長よろしく申し上げます。</p>
質疑及び意見交換	
出口委員長	<p>はい、どうもありがとうございました。</p> <p>議題の2番、3番、4番についてご説明いただきましたが、これより15分ほど時間取りまして、以上の件につきまして、ご質問あるいはご意見等ありましたらお願いしたいと思います。どうぞ。</p>
箱嶋委員	<p>箱崎校区の箱嶋です。</p> <p>資料の3、4ページの九大の移転についての説明ですけど、この白い部分、実際の事業費がいくらかかるのかということと、残したらどのくらいかという話。そして、この箱崎キャンパスをいくらでお売りになるのかなというのが何も分かりません。というのは、先ほどの資料を見ていただきます通り、随分と地価が下がっています。基盤整備とか土地解体とか、そういうふうなものをまかなうとですね、売却費用の中で伊都キャンパスの整備費用を売却費用でまかなうというのは無理があるということです。</p> <p>我々4校区協議会で、九州大学のOBの先生方とご意見を聞く機会がありました。その際は、当初は跡地を売却して移転費用をあてることになっていたと。当初は1990年代は、2,000億円ぐらいの資産があったということですけど、昨今では3分の1程度になっていると。つまり、売却費用だけでは移転費用をまかなえないという</p>

	<p>話でした。その移転は国の税金で行なうということになっても仕方ないという意見がございました。</p> <p>ずっと箱崎キャンパス処分ありきという話になっていますけれど、我々としてはキャンパスの一部を、この九大自体が利用したり、地元貢献をする考えはないのか。というのは、先日、九大100周年の記念式典に私も参加させていただきました。その時、100周年事業費で、約98億円のお金が集まったとお聞きしました。これは研究支援とか伊都キャンパスの整備にあてると思われますけれど、箱崎に100年いた九州大学が地元に残すというかたちでの、証というかたちで、そういうものを、例えば我々としては、総合研究博物館を、工学部本館を利用して残していただきたいと提案をしていますけれど、そういうものについて九大としてそういう処分だけの考えではなく、そういうものを考える必要があるんじゃないかというふうに思っています。まず、一つはそれだけです。あとはご提案させていただきます。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>はい。</p> <p>今、お尋ねになった点はおそらく大きく2点あるのだと思います。1点は、九州大学としては、土地の売却の価格の設定をどのように考えられているのかという点だと思います。4ページ目の資料を見ると、先ず先にトータルの価格があり、九州大学として、その価格を基準にして、売却の価格を算定するようにも見えます。</p> <p>あるいは、周辺の土地のマーケットを見ながら、不動産鑑定士に鑑定していただくなりして、価格を設定する考え方とがあると思います。後者の方がむしろ一般的と思うのですが、その辺りいかがなのでしょうかとのお尋ねです。2点目は、九州大学の方針として、この箱崎キャンパスに対して、何か投資をするような考え方があるのかどうかという点です。</p> <p>特に、100周年記念事業で集まった基金等をそういうものに充てる方針があるのかどうかという点についてです。おそらく後者の方は、もしかしたらこの後の議題に関係することかもしれませんが、一応お尋ねしてみます。いかがですか。では、直接ご担当の井戸部長からお願いします。</p>
<p>井戸委員</p>	<p>もったもなご質問だろうと思っております。</p> <p>資料の方でご用意させていただいております。特に、2ページ。参考資料の2-1の2ページの方をご覧いただきたいのですが、九大の統合移転事業の2ページの左下の方に、「移転スケジュールと進捗状況」というのを示させていただいております。第Iステージから第IIIステージまで、3期に分けて、移転を行なってきております。</p> <p>当初この計画が作られたのは、平成3年でございます。その頃は箱崎の跡地の売却で十分伊都キャンパスの整備は出来るという構想の下、始まったわけでございますけれども、その後バブルの崩壊等で、そのバランスが取れなくなってきたということがございます。</p> <p>ただ、現在は一番右側の第IIIステージというところにきておまして、この第IIIステージにつきましては、次の4ページの方にも書いてございますけれども、右側の下の方に、売却収入で施設整備を行なうという方向で現在進めております。</p> <p>もちろん箱崎だけでは足りないんじゃないかというご心配は当然でございますけれども、それ以外の、例えば粕屋町にございます九大の農場の売却も合わせて予定してございます。また、それ以外の土地の売却も考えてございまして、大学としては、箱崎以外の土地もひっくるめて、伊都キャンパスの整備にあてていきたいというふうに考えております。</p> <p>それから、いくらで売ることのご質問につきましては、これは最終的には、競争入札ということをはける予定でございますので、いくらで売ることとは、差し控えさせていただきたいというふうに思っております。</p> <p>それから、2つ目の大学として、何かここに総合博物館を残してはどうかというご意見でございますけれど、現時点では大学の機能は全て伊都の方に移したいと。移すことがそもそもの大きな方針でございますので、そのようなかたちで考えているところ</p>

	<p>でございます。</p> <p>また、100周年を機に、関係の方々から基金をいただいて、98億、建物等のご寄付も含めてなんでもございますけども、ご支援をいただいたわけですけども、これは現在の教育、研究のために使わせていただくことを、大学として中で検討しているところでございます。以上です。</p>
出口委員長	<p>よろしいですか。はい。</p>
箱嶋委員	<p>あまりよろしくないですけども。</p>
出口委員長	<p>おそらく土地の価格については、左側に量りのような図がありますけれど、それが今の九州大学としての目論見ということだと思います。最終的には、入札だろうと思いますが。</p> <p>はい、どうですか。斉藤委員、関連でよろしいですか。</p>
斉藤委員	<p>菅松の斉藤ですが、今のご質問に対する答えですが、競争入札の関係上金額は言えないという話でしたけれど、予定価格というのは、公表するのではないですか。もしそういうことであれば、今の時点でこういうふうを考えているという金額を言っていたかと、箱嶋さんの質問に対してきちんとした答えになるのかなという感じがいたします。</p>
出口委員長	<p>今の時点で想定されている金額、あるいは関連したものでも良いですけど、確認だけさせていただきますでしょうか。では井戸委員にお願いします。</p>
井戸委員	<p>いくらで売却するかということは、先ほど申し上げたことの繰り返しになるんですけども、ただ、まあ資料で地価が下がっているということがございましたので、いくらで売れるかということと、我々がいくらで売りたいかと思っているかは、若干違うのかというふうに考えております。</p> <p>ただ、売却の時期もまだ先だと、いわゆる今年とか来年という話ではなくて、この委員会のご提言を踏まえた上で、それから具体的な話になってくるんだろうと思ってございますので、現時点ではまだこれで売りたいと、あるいはこういうことをこういう数字で考えているということは、申し上げられないということでございます。</p>
出口委員長	<p>はい。よろしいでしょうかね。</p> <p>今の時点では、そこまでのお話はできないということでございます。逆にいうと、第Ⅲステージの施設整備費が、原町の農場などを売却した収入源と含めてバランスが取れば、九州大学としては良くて、それ以上の利益を上げようということは考えてはいらっしゃらないということですね。</p> <p>当然マーケットとのバランスに難しさがあるということも十分認識はされているということなのですね。</p> <p>関連でよろしいですか。</p>
箱嶋委員	<p>すみません。もう一回先ほどご質問しようかと思った、例の4ページの売却スケジュールとの絡みなんですけど、これ見ますと、この跡地のビジョンが決まれば、即売却ということになると思います。</p> <p>我々としては、一体利用という考えを要望してきておりますし、この通りに進めば、例えば、42haの内にぽつぽつ穴が空いてくるわけですね、土地自体に。で、それは治安上とか、やはり地元としては大きな問題になってくるんですよ。で、そこら辺をどのように今後考えていくかというのは、大きな話になると思います。</p> <p>そして、もう一つが、これを見ると都市計画決定を同時にするというのを合わせると、処分するまでの間、最低でも2、3年の事務手続きがかかると思うのですよね。地元と合意をするという手続きからいくと、委員会の提言を受けたら、即処分するような早急なスケジュールに見えます。私個人的にそう思っています。いちおうそれだけです。</p>

出口委員長	<p>今言われたのは、地元としては、移転プロセスの途中の段階が非常に懸念されているということですかね。</p> <p>この点については、地元等ときちんと協議する場合は、また別の所であるのでしょうか。ここは、跡地利用の将来ビジョンを検討する委員会ですので、途中のプロセスで、防犯や空き家などの問題が出てくるわけですが、そうした実際のキャンパス移転のプロセスにおける問題は別の場できちんと協議いただければと思います。</p>
箱嶋委員	<p>あのこういう売却スケジュールを今日初めて見させていただいたので、そういうことに気付いたんですけど。我々としては、一体での活用と考えてましたもので。</p>
出口委員長	<p>はい。ありがとうございます。九州大学の方で今のご質問に対して何かございますか。</p>
事務局 (林)	<p>すみません。事務局の福岡市の方からですが。私達が今九大さんと今お話をしている中では、一体利用ということは、前提というふうなことではないのですが、全体の一体的な絵をちゃんと描いて、虫食い状態にならないようにという地元のご意見をちゃんと踏まえて、私共でしっかりした計画を作った上で、それに添って、ちゃんと売ってってもらおうと。それを出来るだけ早くやっというふうなことで、今一生懸命汗をかいているところでございます。</p> <p>で、あの九大さん自体もそういうふうに使われていることだと思っておりますけれども、ご心配のところというのは、やはりこのビジョンの出来た後に、どういう土地利用計画を作って、手続きをしていって、その本当に売れる段階になって、やっと思えるというのは現実的にあるところだと思っておりますので、その中でも多分何も手続きをしなくても、売れる所がもしあったとしても、それもこういった計画の中の一部のマッチしたものであるとして売って頂くと。というようなことの共通認識の元で、今進めさせて頂いていると認識しております。</p>
出口委員長	<p>よろしいですか。はい。</p> <p>他に、では益村委員。</p>
益村委員	<p>資料2-2の16ページ「国土の長期展望、中間とりまとめ」というところで、国交省の資料が参考資料として出されていますが、確かにこれからの人口構成の変化など社会経済情勢を知るという意味では重要なものではございますけれども、ただここでの資料は、データが少し古いんですよね。</p> <p>2010年の国勢調査の結果が今出てきています。それが出る前は、2004年人口1億2784万人をピークに、2005年から人口は減少に転じるという予測でしたが、2010年の国勢調査の結果を見ると、人口は1億2800人に増えています。</p> <p>なぜ増えているかという点、30代後半に段階ジュニア世代がいます、その人達が40歳になる前に子どもを産んでおきたいという要因などがあります。しかし、この人達が、40歳になったら、また少子化になるのではないかと考えております。</p> <p>少子高齢化などの人口変動については、ちょっと時間軸は変わりますが、今後人口減少となるという推計としては変わらないというところで見ているので、資料を見る時に、ちょっと注意が必要かなと思っております。</p> <p>あともう一点は、同じく資料2-2の12ページの「福岡市の取組み状況」の左下のところですが、「福岡県総合計画審議会答申」が24年5月に出されたと書かれておりますが、実は私はその審議会のメンバーの一人でもありまして、これは昨年度に終わっております。今年の2月頃だと思います。日付について確認が必要かなと思っております。以上です。</p>
出口委員長	<p>2点ありましたけれど、1点目は、人口の補充出生率が若干上がったことは、一時的な傾向としてみておいた方が良さだろうという補足のコメントを頂きました。2点目は、資料2-2の12ページ目の左下のところで、福岡県の総合計画審議会の答申が、平成24年5月になっておりますが、これは日付が間違っているということでしょうか。</p>

事務局 (林)	<p>すみません。1点目からよろしいですか。1点目は、益村委員のおっしゃる通りでございます。これ自体は震災でちょっと検討が止まっているような状況もありまして、最終とりまとめが出ておりませんで、今の現状でも修正がなっていないような状況と見ております。</p> <p>ちなみに、福岡市の将来人口の推計についても、24年の5月、今年5月に出させていただいた中では、2035年のピークを160万人というふうなところも、推計させていただいておりますので。そういったところも含めて、今後この資料の方針とか新しいデータがあったら、すぐに提出をさしてもらいたいと思いますので、よろしく願いいたします。2点目は。</p>
出口委員長	2点目は、日付の確認でよろしいですね。大した話ではないですが、最新の総合計画であることは、間違いありませんね。
吉岡委員	計画そのものが今年度からスタートしていますんで、答申をいただいたのは、昨年度の内に答申をいただいております。
出口委員長	はい、そうですね。私も副会長を仰せつかっていますので、気をつけます。他に何かコメントございますか。はい、どうぞ。山内委員。
山内委員	ここで言っているのかどうか分かりませんが、今日いただいた資料ですけど、資料の下に、「箱崎キャンパス跡地の目指すべき将来像」というのが書いてあります。これは誰が決めたんですか。
出口委員長	何ページになるんですか。
山内委員	資料2-2の2ページです。
出口委員長	第1回検討委員会資料のまとめですか。
山内委員	中身の文章にも随所にそういう感じの文章がずっとあるのですが、あたかもそういう方向で進んでいますというように受け取れるような文章が山ほど書いてあるんですけど。この委員会はそういう委員会ではないですね。何か一つの決め事があって、それを具体的にどうするかという話ではなくて、大本の議論をしているわけでしょう。目指すべき将来像というのは、あったら議論をする必要はありませんよね。
出口委員長	はい。2ページ目の下の2行を事務局の方に確認したいと思います。
事務局 (林)	<p>すみません。2ページについては第一回目の資料のおさらいということで、今回説明を割愛させていただきましたので、誤解を与えるような形になってしまって申し訳ありません。</p> <p>ここに、一番下のところに、「箱崎キャンパス跡地の目指すべき将来像」というのは、こういった社会情勢の変化とか、地区の変遷、地区の状況を踏まえて、これから作っていかうというのを、一回目に確認しましたという意味で書かせていただいております。で、山内委員がおっしゃるように、これからここで議論を色々しながら、こういった将来像を目指すんだというのを皆さんで共有をしていきたいというところで、今議論を進めさせていただいているという認識でございます。</p>
山内委員	<p>何の確認をしたいのですか？説明を聞いていても何を確認したいのかが全然わかりません。</p> <p>例えば、今確認の話をする、先程から議論になっているいくらで売ることとかいう話の関連で、これは土地を売却して、それを充てるということになっているからそう言ってるだけの話で、それは売ってもどっちみち足りないわけです。売らなくていい方法もあるわけですから、今からその売らなくていい方法を提案しますが、そう</p>

	<p>いうものも色々あるわけですから、何もその金額の話を確認したわけではないので。</p> <p>少し気になるんですが、当たり前のようにどこかに何かがあってそれにずっと近づけていくような、資料の文章が全部そうなっています。第一回目の時も、私は資料のどこをみても開発ばかりではないかという話をしましたけど、今回も、さらにそれを言ったから、また書いたのではないかと思ってしまいます。そうではなくて、やはり42haをどうやって後世の人たちに最もいい形で残すかということをお我々は考えているわけですから、当然色々な方法で考えていかなければいけないわけで、そういう点で少し長くなりますが、少しご提案させていただけますか。</p> <p>第一回目の時も言いましたけど、議論をするのに、少し視点を変えて、本当に思い切って変えた発想で考えるべきではないかという提案です。そうしないと日本全国どこにでもある、さあ土地が出来た、さああれを作ろう、これを作ろう、高層ビルを作ろう、道路を作ろうで、どこにでもある大規模開発の形、まちづくりがはじまって、そして何年か経ってみたら、日本全国にあるものと全く同じものが出来上がったと。そして出来上がったら当然色々な建物が建ってくるわけですが、そういうものの中のいくつかは、上手くいかずに空家になってしまうとか、そういう事例がたくさんあるわけですから、そういうことにならないようにしなくてはいけないのではないかということで、私は発想を変えるということを言いたいのです。</p> <p>4校区協議会の提案もそういう意味で、第1回目の委員会の時も改めて提起をしたのですが、私達が何を言いたいのかというのは、あの中にも具体的に述べてますが、改めてまたいくつか強調しておきたいのです。今までのような開発優先ではなくこの場所を丸ごとそのまま残すという発想にならないかということ、そして、丸ごと残す、いわゆる保全する、その保全の中をどういう形で保全するかという対策をみんなで一生懸命考えてはどうかと。丸ごと残す為には、土地も残しておかないといけないわけですから、この土地をどうすればそのまま残せるかということをお、国と県と市と九大と4者一緒になって色々な方法を考えるはどうかと。お金の問題もあるし、いわゆる事業として何か出来ないのかということも含めてですね、そういうことを考える価値があるのではないかということです。</p> <p>今年の3月だったでしょうか、ある新聞に有名な哲学者の方が文章を書いておられましたが、これは原発の関係の文章ですけど、その人がこういうことを言っています。『今の日本人の生活は結構豊かで、これで充分ではないがこの生活が未来へ続くことが重要である。その為には考え方を換え欲望を満たすことのみを優先させるような思想、文明を捨てなければならない。』と書いてあります。もちろん色々な人がいるわけですが、そのくらいの発想でこれからのことを我々は考えていく必要があるのではないかということです。</p> <p>そうした考え方を念頭に、4校区の提案の中心テーマ冒頭に防災ステーションのことを書いているのですが、改めてこの中身にふれておきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。前は、この中身に細かく触れられていませんでしたので。</p>
出口委員長	<p>先に説明していただいて、次の議題に入った時に再度お話いただくことでよろしいかと思えます。すみませんが、時間も限られていますので。</p> <p>まず、今、画面に出っていますが、2ページ目の「第1回検討委員会の資料のまとめ」ですが、おそらくほとんどの部分が、まとめの要約ということで書いてありますが、そこから矢印が出て、「目指すべき将来像」となっています。将来像については前回の委員会でも議論していませんので、前回の資料のまとめにこれが入るのはやはり違和感がありますよね。</p>
事務局 (林)	<p>わかりました。すみません、修正させていただきます。</p>
出口委員長	<p>それから、この委員会の目的ですが、これも第1回目の時に事務局の方からご説明がありました。お手元に前回の資料がある方はご確認いただいても良いと思えますが、あくまでもこの委員会は将来ビジョンを検討する委員会です。ビジョンとは何かという話もありますけれども。</p>

	<p>跡地利用に関しての将来ビジョンについて、総長及び市長に提言する内容をここで協議するということですので、将来ビジョンというものの中身、アウトプットの案の共通認識を持っておいた方が良くと思いますので、今のご指摘を受けて、次回に案を提示いただいた上で議論したいと思います。将来ビジョンは漠然とした言葉ですので、実際にそれがどういう項目で構成されるのか、アウトプットのイメージの共通認識を持っておきたいと思います。</p>
事務局 (林)	<p>はい。わかりました。</p>
山内委員	<p>それではご提案ですが、平成24年4月に、九州大学が、九州をはじめとするアジア地域の大規模災害に対処する研究機関として、アジア防災研究センターを設立したということが報道されました。その記事の中で、この委員会の委員でもある塚原教授が、自然災害だけではなく原子力発電所の事故も想定するというコメントをしておられますが、そういうのを含めて、この我々が提案した「防災ステーション」と、九大が（もちろん伊都に作るという発表ですけれども）同じ方向を向いている、同じ方向で考えているということ、どこかで合体させる方法がないかということがあります。</p> <p>防災ステーションの設置を提案する理由は次のとおりです。</p> <p>一つは、一昨年（2011年）の東日本大震災やそれに続いて起こった福島第一原発の爆発事故に関してです。これは現在まで未だ解決できずにいるわけですが、当然、こういう事を引き起こしてはならないと全ての人達が真剣に考えているわけですが、これを本格的に「防災ステーション」を創設して、その中でそういう方向を作って研究をしていくものが必要だということを考えて提案したものです。</p> <p>さらに、アジア、アフリカ、中南米地域における急激な人口膨張をはじめ、無秩序な開発の進行による都市の破壊、農地の砂漠化に加え、地球温暖化に起因する異常気象、最近本当に思いもよらない事が突然起きております。そういう世界中で起きている問題をどう解決していくかという問題があります。そういう世界的問題を含めて、防災センターにおいて、これらの人類を悩ます様々な災害の予防、予知及び発生後の迅速な対応について、世界中の人々と連携し、共同研究をして、その成果を国内のみならず広く世界に発信をする。特に対策が遅れているアジア、アフリカの人々に伝え、その実行や防災知識の普及を支援する事は、わが国の重要な使命でもあり、アジアに向かって開かれた都市、アジアの一極を担う都市を競合する福岡市にとって、重要テーマです。</p> <p>最後になりますが、こういう位置づけで考えるべきではないかというご紹介ですが、足尾銅山の鉍毒事件で世間の激しい非難を浴びていた古川財閥の寄付により、九州帝国大学の工学部創設が可能となったという歴史があり、九大箱崎キャンパスの移転跡地に「環境防災ステーション」をおくということは意義深いものがあると思いますので、防災ステーションに関して、改めて十分な議論をお願いしたいと思います。すみません、長くなりました。</p>
出口委員長	<p>どうもありがとうございます。非常に貴重なご意見、ご提案をいただき、中身については、もし関連するご意見アイデアがありましたら、後半の方で出していただければと思います。前半で何か関連するご意見等ございますか。</p> <p>前回の宿題を、議題2から4のところでご説明をいただきましたけれども、いかがでしょうか。福岡市の方でも、様々な観点から、この箱崎の跡地利用に関連した特に導入機能の検討にも取り組まれていることが、貞刈委員の方からもご説明ありました。</p> <p>特に、前回、東京圏の中核機能のバックアップを国土全体の観点からみると福岡に設置すべきではないかというご意見を何名かの方が言われたと思います。それについて、現在検討されているということでございました。</p> <p>それから、関連してですが、福岡市の財団法人福岡アジア都市研究所が、この箱崎の跡地利用についての調査報告書を出されており、その中では、確か、国の機関を一部ここに導入する可能性について触れていらっしゃるかと思います。</p>

	<p>その時には今ある合同庁舎などを含めた機能をこちらの方に移転してはどうか、合同庁舎の移転等も含めた東京圏の首都機能のバックアップを箱崎に持ってきてはどうかということに言及されていたと思いますが、おそらくそうした案にも関連してくると思います。</p> <p>これは非常に重要な観点ですが、時間がかかる話になりそうなので、跡地利用等と最終的にうまく結びつくか分かりません。ただ、空港や港が近いという利点もありますし、北九州への軸上にこの土地があることが、関連してくるかと思えます。また、九州の市町村、あるいは、県を含めた自治体としては、道州制の導入には、確か賛成のお立場だったと思います。道州制との関連がどうなるのか分かりませんが、道州制の州都をどこかに決めなくてはいけなくて、その際にも箱崎の土地が候補の一つになってくるのかなと思って聞いていました。</p> <p>貞刈委員いかがですか。道州制の議論とは関係なく、議論されているんですか。</p>
貞刈委員	<p>福岡市の方で、市長から色々な提案などもございまして、メトロ福岡とか都市州構想などの検討を行っております。</p> <p>メトロ福岡といっているのは、福岡都市圏9市8町ですか、まずはその中で連携を更に深めていきましょう、そうして県との間の色々な関係といえますか、権限委譲等も含めて、より良い地域を作れないかという議論でございます。</p> <p>それから、更にその次の段階になりますけれども、道州制なり、そういうようなものが導入された時に、福岡都市圏、福岡市内というのがどのような役割を果たしていったら良いのかということで、新聞記事を賑わしておりますけれども、今年度の前半ぐらいに市としての考え方もとりまとめて、県とか都市圏の市・町とかともご相談しながら、考えをまとめていけたらと思っております。</p> <p>基本的にはそういう形の中で、いかに福岡市、福岡市域といえますか、そういうものの活力を高めていくかということですし、先ほどのバックアップというのは、国の中での位置づけといえますか、そういう機能もしっかりと動かしていきたい、と考えているところでございます。</p>
出口委員長	<p>時間を取りすぎてしまったのもありますので、よろしければ後半の方の議題に移りたいと思います。</p> <p>それでは、次に、議題の5番目「まちづくりの課題と方向性案」について、事務局からご説明をいただき、ご意見を出していただけたらと思います。お願いします。</p>
5. まちづくりの課題と方向性（案）について	
事務局説明	
事務局（林）	<p>はい。</p> <p>まちづくりの課題と方向性の案について、ご説明させていただきます。資料は、参考2-1になりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>まず、1ページ目をお願いします。今スクリーンに出てるフローのところですか。こちらの説明が先に本当はしておいた方が良かったのかもしれませんが、改めて説明させていただきます。今日の委員会で議論の中心となるところを赤書きでしております。第1回目で、地区の概況、課題等の整理を行なったのを踏まえて、まちづくりの課題と方向性を浮き彫りにすると。そして、この中でコンセプトを少し見つめていきたいというのが、今回のポジションでございます。今回の委員会の議論にさせていただきます。</p> <p>右側には、委員会の検討内容ということで、もう少し具体的に書いてございます。それにつきましては、第1回目とか今のこの中で説明させていただいた資料とかを基に、地区の優位性、地区の課題というのを確認しながら、上位計画の方向性、社会情勢の変化等も確認しながら、委員のご意見を伺って、そして、まちづくりの課題と方向性というのを、この議論の中で浮かべていって次に繋げていきたいというように考えています。</p> <p>資料の構成を簡単に続けて説明させていただきます。先ほど九大の方から説明して</p>

いただいた事業スキームは飛ばしていただいて、地区の優位性と課題というところまでお願いします。ページは5ページです。5ページから地区の優位性と課題というのを、ここの地区のもっているポテンシャルとしては、非常に広い範囲、アジア周辺までも含めた非常に広い範囲から、箱崎という土地の周辺の状況まで様々ございますので、3つぐらいの主体に分けて、課題、優位性を整理させていただいております。いずれも、最初の広域については、アジアで、2番目の中域については、都市圏、福岡市東部というふうな所、3番目の近い視点として、箱崎キャンパス周辺という所での整理をさせていただこうと思っております。

そのあとに、最後の11ページになりますけれども、こういった課題とか優位性を提示させていただいた上で、どういった方針が考えられるかというような、あくまでたたきの状況です。これは、もう事務局が今まで議論していただいたことで、優位性、課題とかを出してきたものを、方針として例えばまとめるとしたら、こういうまとめ方もあるんじゃないかというあくまでたたきの段階で出させていただいて、ご意見をこれから賜って、箱崎にふさわしいものを作りあげていくという作業をしていただくための資料の構成でございます。

それでは、ページ戻ります。5ページ、6ページからちょっと説明を入らせていただきます。簡単にさせていただきますけれども、まず、6ページの文字の部分がありますけれども、これは主だったものを左の方の図面におとしてございます。まず位置関係でいきますと、東アジアがほぼ中心にあって、半径2000kmの圏内に、人口が約10億人というふうな状況でございます。この2000kmの中には、広州市辺りまで含まれておまして、他にも完全にすっぽり含まれておりますので、こういった巨大市場があると。そして、福岡からは、空路も充実しておまして、3時間以内に到達できる東アジアの都市が8都市、交流機会人口とよばれるものは5500万人にのぼっているという状況がございます。それが図面でいうと、右の大きな図面でございます。

次に、アジアの交流というところでございますけれども、皆さんご存知の通り2000年を超えるアジアとの交流の歴史をもつ福岡ですけれど、古くからアジアとの交流の窓口として発展していった歴史がございます。近年では、1989年アジア太平洋博覧会以降、アジアとの交流を盛んにするためのアジア文化賞、アジアフォーカス、こども会議等で更に深化してきております。実質的な部分もかなり深まっている状況でございます。それと、国境を越えた連携モデルとして、福岡・釜山の超広域経済圏形成に向けて、両市と両商工会議所により、協力体制を強化しているような状況も出てきてございます。また、交流としては、アジアを中心とした外国公館が多くて、海外経済関係の機関が集積をしているということで、図面の左の方にもまとまって国際機関、左下ですけれども集積の度合いを書いてございます。また、アジアからの留学生が多く、特に中国人留学生というのは過去5年間で、1.5倍に急増していますと。というところを真ん中の下の方に書いて、グラフにも書いてございます。

あと、集客・観光というところでありますけれども、福岡が大陸に近いという海路の優位性を活かして、博多港の国際ターミナルから釜山の部分で、国際定期航路が周航して、まあ外国人の航路、乗降数は、平成23年まで19年連続の1位ということで、他の航路、他の他都市の日本の航路を圧倒している状況でございます。また、飛行機等も充実しており、国際空港、福岡空港からあの出入りする外国人の方は、全国5位で、博多港を合わせると、成田、関空を繋ぐ、続く国内3位のゲートウェイとして、機能している状況。それと、アジアからのクルーズ船の寄航が多数きておまして、これも日本で一番の状況だということになっております。また国際コンベンションの開催件数が東京に次ぐ第2位ということ。また九州新幹線全線開通によって、九州南部とのアクセスが飛躍的に向上しているというところで、鹿児島、熊本も含めた観光の振興のための連携強化が行なわれているような状況がございます。

次に、産業の方ですけれども、産業の方は2番目の丸ですけれども、「グリーンアジア国際戦略総合特区」として、環境を軸とした産業の競争強化を図っていく試みがなされていること。3つ目の丸で、福岡市が情報関連産業の集積が高いこと。4つ目

	<p>の丸で、ゲームの関連産業の集積を目指していること。それと、最後の丸で、ファッション関連産業を盛り立てていっているということで、福岡のブランドをアジアをはじめとした国内外に発信中であるというような状況を書いてございます。</p> <p>人口の状況としましては、福岡市の将来人口のピークが2035年、約160万人の予想ということで、先ほどちょっとお話しさせていただきましたが、若者率が非常に高く、政令市の中で一番ということと、それから、20代の女性の人口も大都市中最も高いというような状況が特徴的だということ・・・</p>
<p>出口委員長</p>	<p>申し訳ないのですが、事前に資料の方、配っていただいておりますので、要点だけをお願いします。前回の資料の復習も入っていると思いますので、要点だけをお願いします。</p>
<p>事務局 (林)</p>	<p>分かりました。失礼いたしました。</p> <p>教育、防災、海外からの評価というところで、学生数が多かったりとか、海外の評価が高いというふうな雑誌の関係の詳細資料と、あと防災関係では、先ほどの首都圏バックアップ機能というところで、東京と同時被災するのが低いというのを図面の左の真ん中辺りに書いてございます。</p> <p>あと、課題につきましては、もう少し新たな需要の喚起が必要ということで、売り込みが必要ということと、理工系の学生達の就職場所が少なくて逃げていっているというような状況も書いてございます。</p> <p>すみません。次の7ページ、8ページに参ります。</p> <p>物流の件は説明しましたが、物流というのを東の地域にもってきましても、やはり半径5km圏内に箱崎ふ頭、流通センター、福岡インター、陸海空の空港とか拠点があるということで、非常にコンパクトに、インター機能が集積している立地状況にあるということ。それと、また高等教育機関が東区周辺に集積しているという状況を示してございます。</p> <p>また、公共交通の集積具合も高く、この箱崎キャンパスについては、JR地下鉄をはじめバスの路線も充実しているというようなこと。あと、緑豊かな環境があるというようなことが優位性として挙げられています。地区との課題としましては、若干商業施設が多くなりすぎている、オーバーストアの傾向という状況もあるということも書いてございます。</p> <p>次に、9ページ、10ページもお願いします。この部分は、箱崎キャンパスを周辺としたこの4校区の部分を中心に書いてございます。図面でいいますと、左の上の方から都市基盤の部分が見塚公園と書いてございますけれど、これが老朽化した部分が課題と。あと、右の方に赤で課題がずっと並んでございますけれど、地下鉄の地上部によりキャンパスの敷地が分断されているだったりとか、東西道路方向の車の動線が当然ですけれどもないというようなこと、過去に浸水被害が発生している地域がこの中にもあるということ、それと、都市計画道路の見直し等が進んでいっているというような都市基盤上の課題ということを書いてございます。また、暮らしの面では、先ほどいいました騒音の話があるというふうなこと、商店街等が転換が進んでいるというような状況。校区で一番北の端に箱崎中学校が位置しているというようなことを書いてございます。右の方に優位性ですけれども、交通物流関係では、福岡インターチェンジから、筥崎宮を出た所に、物流企業の集積が高いこと、キャンパス内に近代建築物というふうな資産があるということ、周辺に、九大病院、見塚病院という高度な医療機関が立地しているようなこと、公共、公共的な公益施設が集積しているというようなことを挙げてございます。</p> <p>それらを踏まえまして、11ページということになります。ちょっと早口過ぎたかもしれませんが、ご了承ください。</p> <p>11ページに、方針を右側に、6つほど掲げております。今、言いました地区の優位性を広域から箱崎周辺まで、それと地区の課題も同様にということで、こういったものを踏まえて方針を立てていくという作業を事務局側でさせていただいております。</p>

例えば、方針1としまして、「アジア・九州新時代の交流拠点都市の一翼を担うまちづくり」ということで、優位性としては、広域からはアジアの視点から、多様な輸送ネットワークの集積、コンベンションの開催件数等を引っ張ってきて、また、地区の課題からは大都市と比べて、もっとPRが必要とかいう話とかをもってきて、上位計画関係からは、首都圏のバックアップというようなことから引っ張ってきてということで、こういったそれぞれの要素を踏まえて、こういった方針が立つんじゃないかという事務局の考え方を示させていただいております。方針2については、「新たな賑わい・活力を生み出すまちづくり」、方針3としては、「教育・研究の意思を引き継ぐまちづくり」というようなかたちで、方針4には、「歴史文化資源を踏まえたまちづくり」、方針5として、「安全・安心・快適に暮らせるまちづくり」、方針6として「持続可能な環境共生型のまちづくり」ということで、今まで提案を4校区さんとか、アジア都市さんからとか、色々な提案を参考にさせていただきながら、こういった方向でのまちづくりの機能を考えたかどうかというようなことを示させていただいております。これを先にご議論をよろしく願います。以上です。

6. 質疑及び意見交換

<p>出口委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>若干予定の時間をオーバーしております。想定では15時半終了の予定でしたが、あと15分ぐらいしかありませんので、よろしければ少し延長させていただきまして、進めさせていただきたいと思っております。ご予約がおりの方は、できれば先に発言をしていただければと思います。</p> <p>今、事務局からご説明いただきました内容について、ご質問、あるいはご意見何でも結構ですのでお話しさせていただきたいと思っております。</p> <p>課題と、地区の強み、優位性と書いてありますが、強みですね。それからこの地区の課題、あるいは、弱みということになるかもしれません。それから上位計画との関連施策といった政策からくる関連するもの。それから社会情勢の変化。大きく4つの観点からまちづくりの方向性を方針として、6点に整理していただいております。</p> <p>補足をお願いしたいのですが、この「まちづくりの方向性」という場合のまちづくりの対象エリアはどの辺りを想定しているのでしょうか。九州大学の箱崎キャンパスの跡地の中だけの話をしているのか、それとも、周辺も含めた話なのでしょうか。「まちづくりの方向性」というこの「まち」はどこを指しているのですか。</p>
<p>事務局 (林)</p>	<p>はい。まちづくりの方向性のエリア、対象エリアにつきましては、今、ここが九大跡地の計画ということで、42.6haの九大の敷地をまずは基本にしながらということでは申ししているところなんですけど、地区の繋がりを考えますと、その中に限られた部分ではもちろん目的を達成しませんので、そのキワの部分、接する部分については、こういった形で連携をしていったら良いかをということも踏まえて、議論をしていただければと思っております。</p> <p>また、最終的にまとめ方として、他のよそ様の土地のところに勝手に絵を描くのは中々難しいところもございまして、その描ける範囲で42.6haの中と、プラスアルファで表現できたら、ありがたいと思っております。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>周辺も含めて考えるということですね。はい、どうぞ。</p>
<p>岸委員</p>	<p>大変資料もよく整理されていると思っております。</p> <p>その上で、1点。まちづくりの方向性ということなんですけれども、方針が6つあってですね、いずれももっともな方針といえますか、題名だと思んですが、一方で将来ビジョンということで考えた時に、この方針がこのエリアだけではなくて、福岡市内、福岡都市圏のどこにでもあてはまるような感じもして、もう少し将来ビジョンというのを考えた時に、たった一つだけしかないのかもしれませんが、まあ特徴が浮かびあがるような重み付けといえますか、フォーカスを絞るようなことも必要なのではないかなと。</p>

	<p>私自身まだ、こういう所にとというのが念頭にあってというわけじゃないんで申し訳ないのですが。</p>
出口委員長	<p>ありがとうございます。 次回までの宿題としてのご意見とします。はい、どうぞ。</p>
松田委員	<p>今の意見に関して、私も同じような感じを持ちまして。おそらく表現の仕方のところも少し課題なのかもしれないですが。タイトルが「まちづくりの方向性」になっていて、それで6つの「方針」なんです。その「方向性」と「方針」で、方針は何をここに書くべきなのかというところが少し曖昧なのと、この6つが並列になっているのですが、よく見ると、例えば私の解釈でいきますと、1と2は、用途に重点を置いた機能的なことが目指されるものが書かれていますし、3と4はこれまでのものは引き継いでいくというか、その性格付けだったり、あるいは視点だったり、5と6はこれからのまちづくりをする時には、どこでも必ず押さえておかなければいけない、ある意味で、最低基準のようなこととございますので、少しその構造化をしていただければ、というのが1点です。</p> <p>それから、全てのサブ項目に、「まちづくり」と付いているのですが、かなり無理をして全部まちづくりを付けていらっしゃるなという気がしますので、それぞれ何をおっしゃりたいのかが分かるような表記をされると、あ、本当にそうなのかという議論が沸くかなと思います。</p> <p>例えば、方針3の3)ですけれども、「質の高い外国人留学生の受け入れを支援するまちづくり」は、本当にこの地域が果たされてきた、そしてまた持っていらした素晴らしい、いわゆる財産だとは思いますが、大学が無くなって、留学生がごっそり居なくなる時に、本当にそれを引き継げるかどうかという、非常に難しいですよ。ですから、引き継げるものと引き継げないものがある中で、混同されているというところもございますし、方針2の3)も「医職住遊学が融合し」って、こういう要素全て、混ぜますということがここに書かれてしまうこと自体が、ちょっと無理があるのかなと思いますので、そこの整理をお願いします。</p> <p>最後に優位性と課題の整理の仕方でもお願いなんですけども、先ほど、メリハリをおっしゃったのも、ここでのメリハリがすごく必要なのかなと思います。強みを活かしていく時に、福岡都市圏ないし箱崎地区が持っている強みと、それにこれから環境の変化でこれだけプラスになっているものがどう増やせるのかというイメージすると少し条件化が出来るのかというのと。</p> <p>それから、実は、福岡市都市圏の強みとこの箱崎地区の持っているポテンシャルが結びついて、更に強みが出るものと、そうでないものと混ざっていると思うんですね。先ほど、出口委員長がおっしゃったように、バックアップ機能に関するポテンシャルは福岡市あるいは福岡都市圏として大きいと。その時に、では箱崎地区が持っているものが、他の地域よりもポジティブなのかどうかということで、この二階層を整理いただくと、よりこの地域が持っている可能性と課題が見えてくるのではないかと思います。</p>
出口委員長	<p>非常にクリアに整理する方法を打ち出さいただきましたので、是非その方法で再整理と言うか、精査をしていただきたいと思います。特に、方向性や方針という言葉を使っていて、6つの方針で構成される方向性との言い方は、違和感があったりします。</p> <p>考え方や方針という言葉の言葉遣いを気を付けていただきたいという事と、方針の1と2は機能に関する方針、3と4が姿勢に関する方針、5と6はこの地区が出来上がった後に持つべき性能に関する方針、というような整理をしていただきました。もう一度、方針相互の関係を眺みながら、分かり易いカテゴリーや見出しを付けていただくなどの工夫をしていただきたいということと、方針の内容の説明が箇条書きふう(1)、2)、3)と書いてありますが、それをこの地区に照らし合わせてみた時にこの方針がどういうふう実現していくのかという考え方を文章で起こしていただく必要があるのかもしれない。それも考えていただければと思います。</p>

	<p>他にどうぞ。中村委員。</p>
<p>中村委員</p>	<p>すいません。商工会議所の中村です。1回目に出ていないので、とんちんかんになるかもしれませんけれども。</p> <p>方針でいうと交流拠点都市の一翼を担うまちづくりということになるかと思えます。非常に大事な話だと思うんですけども、何となく事実関係が少し違うのかなって思えます。</p> <p>まず、今、松田さんが言われた、福岡都市圏全体としての広域的な強みというところからいくと、資料の5ページ、6ページだったと思いますけども、よく言われるアジアの地政学的な有利性という事でこの地図を出してくる、非常にアジアにつながっている、物流についてもRORO船が強いというふうに言われている、実際のところ、そうではない面があるという事をやはり注意しておかなければいけないと思います。</p> <p>特に、簡単に言うと、福岡と北京は航空の直通便がないんですね。(乗り継ぎで)6時間かかりますが、東京からだとも3時間で行けるというところで、これは決して強みではない。上海も(東京から)シャトル便が出ている。それから、農産物は今香港からの輸出入しかないんですけども、そこに関しては今のところ3日間で行けるという態勢ですが、物が集まらなくて6日間となっているところ、東京は5日間で行くというように、物流の面でももしかすると危ないというような面を持っていますので、決して、放っておいてアジアの拠点というのが高まっていくことではないという認識は必要だと思います。</p> <p>それから、今度は箱崎の方なんですけれど、地元の方はよく分かると思うんですけど、貝塚駅って便利な駅でしょうか。あの相直が想定されているために平面であるにも関わらず2階に上がらないとホームに降りられないという駅になっている。決して便利ではないと思います。</p> <p>九大から例えば東方面に、私も宗像に住んでいるのですけれども、宗像方面に行くとなると、箱崎駅に行くという手はあるんですけど、文系の方から行くと貝塚駅が便利です。ところが貝塚駅で乗り換え、千早駅で乗り換え、って行くと随分時間が掛かります。箱崎駅まで歩くと箱崎駅は普通しか止まりませんし、20分に1本という頻度もあり、決して、東の方面について交通の便が良いとは思えません。</p> <p>決して、拠点性があるとはとても思えないということで、色々な可能性を決める時に、また考えていく時に、例えば、先程も土地の値段という事があったのですけども、千早地区よりもかなり低い値段、7割から6割ぐらいの値段でしかないという事実を見ると、やはり交通の拠点性というのは本当にこの地区にあるのでしょうか。やはりこれは作っていかねばいけないという方向性をきちんと入れておかないと、福岡市の中の箱崎というのが潜在的な力を持っているということ、確かに持っているとは思いますが、それを十分に発揮できるような態勢になっていないという認識も併せて、この交流拠点都市の一翼を担うまちづくりということを考えていかなければいけないのではないかなと思います。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>これは5、6ページ目に関係しますが、福岡市、福岡都市圏の有利性を、やや楽観的に考え過ぎているのではないかというご指摘です。</p> <p>競争関係の中で捉えるべきではないのかということですが、その点はまた、宿題として良いでしょうか。今後の再整理の中で、加味していただければと思います。あるいは具体的にここをこう直して欲しいという意見がありましたら、事務局の方に出していただければと思います。よろしくお願いします。</p> <p>もう1点は先ほど、まちづくりの方向性と書いているところのまちのエリアはこの箱崎キャンパスの跡地だけに限らず、周辺も含むということですので、当然、貝塚駅も含まれてくると思います。市から、馬場委員と貞刈委員がいらっしゃいますが、どこまで福岡市が公共投資をしていくのか、あるいは、リーダーシップを発揮して、課題を改善していただけるのかという点もお伺いしておいた方が良いかと思えます。貝塚駅での相直の問題は、あくまで西鉄さんと市の交通局とが、電車も睨み合っていますが、何十年の懸案事項ではないかと思えます。しかし、いつまで経っても動かない</p>

	<p>ので、そうした意味では利用者の観点を十分に考えていただけないという気がします。いかがでしょうか。</p>
馬場委員	<p>まず、貝塚駅のお話をする前に、先ほどの中村委員のお話に関連して、ちょっと話が出てきましたが、今回、整理の仕方として、優位性と課題ということで整理しておりますが、航路の話も、優位性としては都心に近い国際空港があるとか、J R、西鉄といった、地下鉄といった鉄道のネットワークが付近にはあるという意味では優位性であろうかなと思います。</p> <p>で、それを活かしていくという上での課題という意味では、先ほども言われましたように、北京に航空路が無いとか、あるいは、貝塚駅の利便性はどうかという課題はあると。というふうな捉え方が出来るんじゃないかなと思っております。</p> <p>ただ、優位性をいかに活かすという意味では、確かに課題が色々あるということはございますので、今後まちづくりを考える中で、明らかになってくる課題に対し、資料の整理の仕方も含め、色々対応していく必要があるかなというふうに思っております。</p> <p>それと貝塚駅の問題でございますけど、これは中々、我々としても結論がちょっと出せない状況が続いていまして、地元の方の期待に応えられていないという事は確かでございます。調査・検討とそれから議会での議論を行ってきておりますけれども、中々、今の運営形態といいますか、鉄道、西鉄貝塚線の運営形態、それぞれが交通事業者さんが今やっている、そのままのやり方では、中々事業を行う場での採算性がとれないという事で、今のところ、すぐにそれを実現できる状況にはないというのが今の状況でございます。それで、相互直通の件につきましては、色々な方法が他の都市などにも例がございますので、そういったものも検討して、具体的に申しますと、上下分離方式とかですね、そういったことも含めて研究していこうということで、実現性に向けての次の段階に入ろうということにはなっております。ただ、本当に時間が掛かって申し訳ないと思っておりますけども、今後も勉強してまいりたいと思っております。</p>
出口委員長	<p>はい。是非、お願いします。</p> <p>特に、箱崎キャンパス跡地は、北側のポテンシャルを上げる必要があります。南側にはJ Rと地下鉄の2駅がありますが、北側のポテンシャルをもっと上げていくためには、貝塚駅の改善というのはやはり必要で、ある程度の公共投資も必要ではないかと思えます。是非、前向きにご検討いただきたいと思えます。</p> <p>他にいかがでしょうか。はい、どうぞ鈴木委員。</p>
鈴木委員	<p>若干抽象的な物言いになってしまって恐縮なんですけども、資料を拝見していて、我々の反省も含めて、産業とか新産業育成とか、あるいは産業立地、産業集積的な話がスルッと入ると、結構皆さんにとってみるとなるほどと表向きは思えても、実は何をやるかとか、後で議論が混乱する事がよくあることでして、ここでどんなことができるか分かりませんが、産業という、2次、3次のイメージ、何をどうしていくのかも、もう少し柱づけをするのかどうかも含めて議論していただくと良いのかなと。やはり地元にとってみると、住環境とか色々な議論をしていく中で、じゃあ産業はどうしたいのかというのは結構論点になりがちな話かと思えますので、ちょっと抽象的な意見ですけども、そのあたりも含めていただければいいと思えます。</p>
出口委員長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>産業、雇用という言葉で片付けてしまっているのが、箱崎の土地にふさわしい、あるいは可能性がある産業の中身を、いくつか候補を挙げていただき、その上で議論した方が前に進む、あるいは、もっと深く掘り下げる事が出来るのではという事かと思えます。</p> <p>地元の方のご提案の中では、高齢化や福祉というキーワードが挙げられていました。南側にそういう機能を持つてくる提案です。これも1つの産業と思えます。そう</p>

	<p>いった点を含めて、もう少し産業というものの中身の具体的なイメージを挙げて、事務局方を出していただき、議論していければと思います。これは、次回以降お願いしたいと思います。</p> <p>他に何かございますか。芝田委員、それから斉藤委員。</p>
芝田委員	<p>松島校区の芝田です。前回もそうでしたし、今回も、さっきもどなたかおっしゃってましたけど、まちづくりという言葉がいっぱい出てきますけれども、私の個人的な感覚かも分かりませんが、あのさっきから出てる、小さな、要するに周辺校区のまちづくりと、さっきのバックアップ云々のような話の、大きいまちづくりと、そのあまりにも色々な視点から見なくてはならなくて、本質がちょっとぼやけてしまうような、そんな気がしてなりません。</p> <p>単純にまちづくりって書いてますけど、地域、そこの地元の小さなまちづくりもあれば、大きく都市を創っていくのもまちづくりなので、このへんの捉え方をですね、1回整理する事が必要ではないかと考えます。先ほどの箱崎駅、貝塚駅の話なんかもそうですが、多分地元の人なんかも非常に使いづらいことははっきり分かっている事ですけど、大きく見れば、果たしてそれがどこまで理解されているのかなというのは、全然皆さんはご存じないという部分があると思いますし、それと、最初から私はずっと考えているんですけど、このビジョン検討委員会で、我々地元4校区もしくは地域の人達は、一生懸命案を考えて、こういうものであれば良いなという、まさしく将来的な素案を出してはいますが、例えば福岡市なり県なり、もしくは出て行く九大の方達は、市としてこういう風に考えれば良いのではとか、もしくは立ち去られていく九大としてこういうものを残して立ち去った方が良いのではという案が1つもいただけてない。</p> <p>特に、市の場合、こういう議論を深めた中で、そういうのを今から考えていくとおっしゃるのかもしれませんが、私達が一番懸念するのはですね、これだけ一生懸命皆さんの意見をいただいて、積み重ねていって、でも最終的には市の方でこう決めましたからみたいな事になると、ではそもそもこの会議は一体何だったんだというのがすごくあるものですから。漠然としたものでも良いですから、例えばさっきのバックアップの事なんかを盛んにおっしゃるのであれば、じゃあそうするためにこの箱崎42.6ヘクタールはこういう使い方が考えられるとかいうような案を是非出していたきたいと思うのです。</p> <p>先ほどの土地価格云々の問題ですけど、これは現実として下がっているのは仕方がなくて、世の中もしかするとそうなるかも分からないという事を見据えた上で、その時点で判断しなければならぬ話です。今の人達が将来ビジョンを考えずに内々的な口約束で決定することではなく、将来的にはここは市が売却したというような話にもなりますので、我々は後世に残していく為に将来の想定も踏まえて活用を検討していかなければこの会議そのものの意味がないと、私は思います。</p> <p>ですから、もし売れないのであれば、では何を作る為にこれだけお金が要るからどこに働きかけるとか、そういう建設的な考えに持っていかないと、売れないからずっとこのままでいいという議論に聞こえて私は仕方ないわけです。</p> <p>それと先ほどの防災の観点で、代表になって私がお願いした航空機の音が、騒音の問題が今日は載ってましたので、非常にありがたいと思うんですが、ただ1つ残念なのは、将来ビジョンというもので話し合うのであれば、この福岡空港の滑走路が増える事も決まっておりますし、何十年先のこれは話ですから、じゃあその時にどれだけ飛行機が飛んでいて、どれくらいの騒音なのかというのが、一切これには載っていない。ですから次の資料の時に是非そのあたりを検討して出していただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>

<p>出口委員長</p>	<p>1回ちょっと切って、事務局の方から何かございますか。今のご指摘、あるいはご意見に対してですが。後半の方は宿題になってしまうかもしれませんが、将来予測や空港の滑走路の増設等を含めた変化がこの土地に及ぼす影響についてです。今は現状の影響について話をされているので、そういった将来の変化を踏まえた予測と課題の話をいただけますか。</p>
<p>事務局 (林)</p>	<p>騒音につきましては、もちろんご存知の通り、今、被害、飛行機の被害のエンジンの性能を向上することで、燃費もよくなっていますし、音も静かになってきて、特に福岡空港あたりは降りる時で出る時の低騒音の工夫をされており、低フラップ角着陸方式だったりとか、急上昇、急下降を避けたりとか、そういう周辺の街区に影響の少ないような工夫を色々とされてきていると聞いております。</p> <p>それで、あの一般的な話では、将来的に今よりもひどくなるというようなことは抑えつつ、やはりそういった環境を整えられるような空港の運営をしようという努力をなされていると聞いておりますので、そのあたりも含めまして、何か資料を提出出来るものがあれば、是非作って提出させていただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>前半にいただいたご意見は、方針の整理の仕方についてのご意見と思います。42.6haという敷地の規模におそらく起因していると思いますが、狭域的な狭い地域の中での課題・方針と、もっと広域的な観点から考える方針を、それぞれ別の観点から分けて整理されたらどうですかというご意見をいただきました。また、短期的な観点や長期的な観点からこの方針を整理してみてもいいのではないかというご意見もいただいたと思います。</p> <p>はい。それでは斉藤委員お願いします。</p>
<p>斉藤委員</p>	<p>先ほどから色々な事を考えておりますが、まちづくりという観点で、まずは我々地元のことを皆さん方が本当に考えていただいてありがたいと思っております。</p> <p>50年後という言葉が出ていますけれど、50年後は多分私も含めて皆さん、おそらく居ないんじゃないでしょうか。なのにここに若者がいない。そこは大変心配でたまりません。で、山内さんもおそらく居ないんじゃないでしょうかから、先ほどのように、先走った話をするのでは。私たちは先がないから急いでいます。そして将来の街の姿を早く見たい。</p> <p>そういう意味で、提案なんですけど、我々は委員という立場におかれている。委員会に来て話をするだけではなくて、日常的に外に向かってアナウンスをし、また何か活動をやっていく必要があるのではないかと思います。その一つとして若者の声を聞くとか、この場所に連れてくるとか具体的なアクションを行うことで周囲を巻き込んでいくことも今必要なことだと思います。</p> <p>特に、箱崎の商店街において、平成8年に福岡市の経済局、経済振興課の方から商店街リフレッシュ事業の委託を受けて、計画をいたしました。その時には24時間コナソントークといって公民館を初めて24時間貸し切って、昼間と夜、商店街の方々に来てもらいました。主に店主の方々ですが、夜の仕事をしている人は昼間の会議に来れますが、昼間の商売の方は昼間の会議には出れないが夜の会議には来れるということで24時間開けてやりました。その時に出了ました報告書があります。その事業には税金が使われています。また、その後3億円ほどの予算で商店街整備をやらしてもらった事がありました。そのことは1つの蓄積ですから、それを全く無視にすることはなくて、九大跡地の影響というのは、この中にも書かれています。</p> <p>グローバル化という話がありますけど、やはりグローバルで行くためには自分達の足元がどういう状況になっているのか。いわゆるローカリティというのが基本にないといけない。そういう意味では我々4校区では、盛んにこういう形で話し合いをして、提案しておりますが、これも本当にそれが出来れば、我々うれしいことなんですけど、先ほどから言っているように、地域、我々のやりたいことだけをやるという話じゃない。これは一提案だと思っています。</p>

	<p>ですから、この会議の中の話についても、それは間違っているよじゃなくって、それぞれの意見をきちんと尊重しながら、お互いの主張をやっていく。それとここは対決の場所じゃありません。要は知恵を出し合う場所ですので、その知恵を出す時に、我々は選ばれてここに座ってるのでしょうから、この会合の時だけではなくて、外に向かって色々な発信をやっていく必要があると思いますし、特に箱崎・管松・東箱崎・松島校区は、まちづくりのことを盛んにやって色々な行動を起こしてますので、その辺のところもう少し、丁寧に見てもらい、また、いわゆるこのまちが出来てですね、九大跡地の利用が出来て、さあ始まりですよではなく、それが出来るまでの間の環境というか、みんなの意識を高めるといふ、そういう仕掛けも、この提言の中に盛り込む必要があると思います。そういう仕掛けが出来ると地域がもっと燃える。我々がある程度中心になって議論する間にも、多分こんなまちになるんだなっていう期待とか、そういう事を感じられるようなまちになると嬉しい。そういう行動が出来る事を九大や福岡市が、色々なサポートをやってもらおうと、最終的に九大跡地及び周辺が、そして広域圏、それからアジアと広がっていく利用計画になる感じがいたします。是非そのような議論をよろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>出口委員 長</p>	<p>はい。大変貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>この場は、知恵を出し合う場であるということを確認したいというご意見をいただきました。まさにその通りだと思います。ご経験とご見識のある方々に、今回の委員会に集まっていたいておりますが、若い世代の方が入っておりません。もっと若い世代が直接、この跡地が再利用された後に利用される方々ですね。そういう世代を巻き込んでいくような仕掛けも必要であり、場合によっては途中でそういった方々の意見を聞く場も必要ではないかというご意見でした。是非、引き続き考えていただいて、この提言書の中にも反映していきたいと思っております。よろしくお願ひします。</p> <p>はい。いかがでしょうか。では、中村委員。</p>
<p>中村委員</p>	<p>すいません、もう一つ全然別の話なんですけど、方針3と方針4の関係なんですけども。非常に気になるんですね。方針3で、「大学が存在した地として」云々。それから、今度は方針4では、「九州大学の歴史文化資源を踏まえたまちづくり」と書いてあって、九大が2つ、ここに出てくるんですけども、何となくその九州大学の歴史文化資源というのと、それから4の1で書いてある歴史文化資源と性格が違うような気がします。</p> <p>ずっと線を辿っていくと、4の1で書いてある歴史文化資源というのは、管崎宮や元寇防塁というような、この地域の担ってきた歴史についてどう取り上げていくか、それをしっかりと踏まえたまちづくり方針を、考え方を出していかなければいけないということと、この九大っていうのは違うのではないかなと思うのですが。</p> <p>ただ、九大がここに100年間あったという、その歴史自体はもっと重視して、活かすべきではないかなと思います。というのは九大が、では重視するんだったら、それは今の伊都キャンパスと病院地区との連携だけで良いのかと。そういうことではなくて、やっぱりここで何が行われてきたのかということをしかり踏まえたものを何らかの形で残していく、検証していくというものでなければいけないのかなと思います。</p> <p>そういう面で見ると、やはりここは工学部で、病院地区の方は京都大学からきたということなんだろうけど、工学部が確か最初に発祥の地域だったと思います。それから総合大学としての文系の、そのキャンパスがここにあったと。そういうことがきちんと意識されて、それが継承されるようなものを何か考えていく必要があるのではないかなと思います。</p> <p>歴史を踏まえるというのは、いい加減な形ではなくて、きちんと地域に根ざしてきたものをしっかりと捉えて、例えば唐津街道であるとかそういうものが歴史の中にあっただけで、それがどこにも出てきてないというのは、何となく雑駁な形で歴史が捉えられているのではないかなと思います。もう少し近代の歴史、それからこの地域が持っている歴史というものをしっかりと捉えるべきではないかなと思います。</p>

<p>出口委員長</p>	<p>はい。重要な観点からご指摘をいただきました。特に歴史文化資源という6文字熟語で捉えられているものの中身が、よく分からないのではないかとこの事をご指摘いただき、それから、これは非常に重要な点なので、むしろきちんと目に見えるような形で、あるいは誰にでも分かるような形で、本当に実現していかないといけないというご指摘です。</p> <p>事務局の方で、今、想定されている歴史文化資源というものの中身について、簡単にご説明いただければと思います。</p>
<p>事務局 (林)</p>	<p>あの歴史文化資源につきましては、大変申し訳ございません。第1回目で地域の現況という事で、管崎宮から元寇防塁から地域の資源、それまでの、九大の歴史のあたりから、ここの土地の成り立ちの変遷、唐津街道とかを含めたものを、一応整理していただいて、これを、一応今まで培ってきた大事な歴史的な資源と位置づけた上で、それをどう引き継いでいこうか、で、それをどう九大の跡地と一緒に活かしていこうかというような観点で、今、議論をしていただいているつもりであります。</p> <p>ただ、今回の資料につきましては本当におっしゃる通り、雑駁な印象を受けるのはやむを得ないと思いますので、次の資料のところで歴史について丁寧に謳っていきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>はい。他に何かありますでしょうか。</p> <p>すいませんが、4時ぐらいを目途に終了したいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いたします。</p>
<p>福原委員</p>	<p>今のお話に関連しての事なんですけども、今この資料の中と、それから前回の資料を見させていただいたんですが、いわゆる人の歩く道というのが、あまりの中にはまだ書かれておられない。次回提案していく中には、是非そういう人が快適に歩ける道というものを踏まえながら、何て言うか、その方針みたいなものを作る必要があるんじゃないかなと思います。</p> <p>それと、歴史文化ということの1つで、今非常に良い建物があって評価がされていますけど、これをどう活用していくかという視点の中で、コンバージョン等して、どういう活用があるか、今、全国各地でかなりやられてると思うんで、そういう資料等も検討の材料にさせてもらえたらと思います。是非よろしくおねがいます。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>はい。貴重なご意見ありがとうございます。はい、どうぞ。</p>
<p>箱嶋委員</p>	<p>時間が無いようなので、次回以降ですね、お願いしたいことを。例えば、こども病院の移転先は人工島ですね、まあ九大の跡地構想が全然決まっていなかったのという話もありました。少年科学文化会館も動いてますし、市立体育館の話も色々進められていますが、候補地として箱崎キャンパス跡地は有り得るだろうと思うけども、そういうものが要するに他の地区へいってしまうというのは、やはり跡地構想計画が少し遅いかなと思います。</p> <p>というのが、行政需要がどういふのがあるのかというのを、次回以降出していきたいなと思ってます。例えば、市も国も県も色々あるわけですから。</p> <p>それからもう一つは、先ほど九大の井戸部長から教えてもらった内容については、私としては、まだ納得してないんで、もう少し詳細な、地主としてのですね、考え方とかですね、箱崎の思いをどう九大として考えてあるのかというのをですね、次回以降でかまいませんけども詳細に出していただきたいなというふうに思います。以上です。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>はい。詳細にと言われても、無いものを出せと言われてる気もしないでもないですが、厳しいご質問かと思ます。どうされますか。</p>
<p>井戸委員</p>	<p>あの前回も少しお話差し上げたと思ってるんですけども、九州大学も100年ここで箱崎地区でお世話になったということがございます。ただ九州大学の機能を最大限</p>

	<p>に活かし、この福岡の地、あるいは九州、あるいは日本のためにですね、活かしていくために伊都キャンパスへ移転というものを平成3年に決めたわけでございます。</p> <p>したがって、大学の気持ちとしては、今後100年伊都で頑張っていくという決意でやっているわけでございます。ただ、もちろん箱崎の跡は、どうなってもいいというわけではなくて、こういった場で、皆さんからの意見を聞きながら、まちづくりの基本的枠組みをとりまとめていこうと考えているところでございます。</p> <p>それで、ちょっと二つほどお話したいんですけども。先ほど、箱崎キャンパスの北部側の活用というところで委員長おっしゃられたことに関連してなんですけれども、箱崎キャンパス跡地の周辺を含めて使っていく。あるいは、考えていくということは非常に重要な点ではなかろうかというふうに思っています。</p> <p>その一つが、貝塚駅の前でございます、貝塚公園でございます。3号線と駅の前に広がってるものでございますが、こういったものも、一緒に考えていく視点も大事ではないかというふうに思っております。</p> <p>それからもう一つが、先程交通問題のところでも出たんですけども、地下鉄と西鉄のそれぞれ始発・終点でございます貝塚駅、こことですね、隣に走っております、JRの鹿児島本線。例えば、鹿児島本線に一つの駅を作るとすれば、交通の結節点というのが出来るのではなかろうかと。福岡の北部、東部の方は、人口も増えておりますし、またそういったところとの接続というのも非常に大事な観点ではなかろうかと。また、そういったことによってもですね、箱崎跡地の利用価値というのを最大限高めることができるのではなかろうかと個人的に考えております。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>はい。いずれにしましても、箱崎委員の方からは、大きく二点のご意見をいただいたと思います。箱崎の跡地に、誘致して来れる可能性が多少ともあるような公共施設がどれくらいあるのかとかということ、皆さんで共有しておきたいという点。何でもかんでも来て欲しいということでは、おそらくないと思いますが、その可能性の中から、方針に従って色々な組み合わせが考えられるかもしれません。</p> <p>その点を議論していく話と、九州大学がここにどういうふうに関わっていくのか、移転した後の考え方を出示していただけないだろうかということですね。</p> <p>他に何かございますでしょうか。はい、どうぞ。田代委員。</p>
<p>田代委員</p>	<p>もうほとんど他の委員の方々が言われたことなんですけども、一点申しますと、大学があったこれだけ広い敷地ということは、その中は、外とはかなり違って、たとえば道路交通法とかも及んでないのかなと思ってます。そういう意味では、大学の研究教育的な意思を引き継ぐということに入るのかもしれないんですけども、普通に切り売りして、普通のまちにしてしまったら、規制も普通と同じになってしまう。九大ならではの規制的に緩いものを活かせるような、特区的な発想に持っていきけるような、まちづくりというのでも考えて良いのかなという印象を持ちました。</p> <p>それと、九州大学と連携したまちづくりと書いてますけども、九州大学の移転後、この箱崎には拠点は何も残さないのではないかと思いますので、連携をすることが将来的にあるのかなという印象を持っております。そういう意味では、先ほど松田委員もおっしゃられたように、外国人留学生というキーワードが2箇所出てきますが留学生が来るのだろうか。あるいは新たな高等教育研究機関を導入したまちづくりとありますけど、九大が出ていって、どこかの大学を誘致するとか、水面下で手挙げてる大学でもあるのかなと、穿った考えも持ったりします。</p> <p>教育研究の意思を引き継ぐという意味では、何か高度な研究をここでずっと続けていくというよりも、むしろこのエリアが持つ特殊性とか、何か制度的な特殊性を活かすような方向で考えた方が面白いヒントが出るのかもしれないなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>どうもありがとうございました。ご意見として、今後検討していただきたいと思っております。</p> <p>いかがでしょう。よろしければ塚原委員にご発言いただきたいと思っております。</p>

塚原委員	<p>今日お話のありました防災の研究センターについては、次回の事務局資料で、今、九大がどういうことを考えてるのかというのをご説明させていただいた方が良いと思っています。今日それを説明するとまた長くなりますので、次回ご説明差し上げます。</p>
坂井委員	<p>私も事務局と一緒に整理させていただく中で、今日いただいたご意見を、また、次の提案に繋げていきたいと思っていますが、その中で一つ、物的にどういうふうになっていくかという、先ほど人の歩ける道という提案もありましたけど、物的なイメージも一緒に、ビジョンですので、少しこの周り、特に周りはレンガ塀が並んでますけど、あれをどういう風に活かしていくのか。そういったことも併せてこれから発想をしていけたらいいなと思っています。</p>
出口委員長	<p>はい。ありがとうございます。大分予定の時間を過ぎてしまって、4時が近くなっておりますが、何かもしご発言したいということであれば、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
貞刈委員	<p>今日はバックアップの話をちょっとしたんですけども、中々この会議のとりまとめ方は難しいなと思いつつ聞いて、出口先生は大変だなと思っています。</p> <p>一つは、僕は前回も言ったんですけど、九大が本当に伊都の方に円滑に移転するためには、基本的にはやっぱりここの箱崎の土地を売却して資金を出さないで移転が進まないんですね。移転が進まないで箱崎の跡地のこともすごく問題なんですけど、色々な課題があると思いますし要望もあると思いますけど、伊都の方も中々進まないで困るといいますか、福岡市の方は両方困るみたいな話です。</p> <p>それで、ご意見にもあったんですけども、やっぱり全体の計画を作りながらも、しっかり土地の売却が出来るようなスキームを作っていないと中々話が進まないんじゃないかなと思います。</p> <p>で、どういう風に売却するかという中に、色々地元のご要望のものもあると思いますし、全体でどういうふうに周りとうちと整合を取りながら作っていくのかという話もあると思います。</p> <p>ただ、個人的というとお叱りを受けるかもしれませんが、結局そういう風に考えると、民間と国と県と市とがですね、色々な主体といますか、そこがの中で役割を果たして、土地を利用して、土地を購入していくといいますか、そういう風なスキームがいるのかなと。</p> <p>市に対する期待が色々大きいかなと思いますけど、たとえば、地元利便施設を中心にたくさんものを作るとか、そういうのが結構市としては厳しいのではないかなと思います。率直に言わせていただいでですね。それから、箱崎がどれくらいのポテンシャルを持っているのかというの、本当にこう地に足をつけて考えたときにですね、どれくらいその優位性があるのかなと。他の地域に比べてですね。どうしても計画を作るときは事務方の人達とかいうのは、色々な交流拠点がこんなにあるとか、活力だとか、そういう切り口で書かざるを得ないというか、計画はそういうふうにしてどうしても書いてしまいますから、夢を見るような計画になっていくんですけど、じゃあそれは本当にどれくらいだろう。それはやっぱり地元に住んでおられればわかると思うし、行政の人間もそれなりに関わって、わかっていると思います。</p> <p>今日の議題の中に出ましたけど、箱崎の跡地、この周辺のまちづくりを考える時に、あまり夢を描き過ぎるような話ではなくて、もう少し絞り込んだといいますか、そういう方向でやっていく必要があるのかなと。それと色々こうベストミックスというか、一つの大きな絵を描いた中で、やはり一つの主体じゃなくて色々な主体が入ってきて、うまくミックスをして実現性を高めていくといいますか、それで九大の移転の方も出来るだけスムーズにスケジュール通りに進んでいけるというか、何かそういうような取り組みというのがいるのかなと思いました。</p> <p>色々いっぱい市のほうに期待をされて、我々も答えなくちゃいけないと思いつつ、40数haの土地の活用とか利用というのは、中々簡単な話ではないんで、色々な主体が手を携えて、地元の方の理解も得ながらやっていかないと難しいと思いま</p>

	<p>す。</p> <p>で、やはり中核的なものというのをきちんとやっていかないと、細かいものを色々やっていっても中々進まないと思います。たとえばバックアップとかは国というか国家的な意味合いを持つものですが、今日ご説明させていただきましたけれども、我々としてはそういうものも全市的に今調査検討しております。それが箱崎という場所で可能なのか、どのくらい実現性があるのかということも含めて、また次回に向けて事務局の方とかでももう少し整理をしていただければと思います。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>ありがとうございます。これまでの議論を聞いた上で、まとめ方の方向性に関連するご発言をいただいたと思います。今後の進め方に反映させていきたいと思います。</p> <p>それでは、予定の時間を過ぎましたので、最後に私の方で、簡単にまとめだけさせていただきます。今日は大変長時間に渡りまして、この地区の課題、方向性、まちづくりの課題と方向性についてご議論していただきました。</p> <p>今、画面上に出ますが、左側の課題の部分、あるいは優位性、優位性が非常に沢山ありますが、優位性の部分の整理もやや羅列しているだけに見えるので、例えば、機能を誘致しようとしたときに、誘致する立場から見のではなく、誘致される立場から見たときに、いくつか競争相手がいて、その競争相手と比較する中で、箱崎の本当の強みは何かとかいうことを睨んで、分かりやすくプライオリティを付けて整理をしていただく必要があるというご意見があったと思います。</p> <p>それから、右側の方針を案として出していただきましたが、やや一般的な表現になっているので、もう少し箱崎で実現する具体的な中身に因数分解して、箱崎の土地の特性に照らし合わせてみた場合の主旨解説をもっとわかりやすく加えていく必要があると思います。</p> <p>それからこの方針を、整理する観点がいくつかあるのではないかとのご意見をいただきました。広域的に見た場合、あるいは狭域的に狭い地域で見た場合のそれぞれの方針として整理する方法。それから、短期的、長期的に見たときのそれぞれの方針ですとか、あるいは機能、姿勢、性能といった観点から見た方針の整理方法があるとのことをご意見をいただきました。</p> <p>方針をただ羅列するのではなく、お互いの相互関係も睨みながら、分かりやすく整理していただく必要があるというご意見をいただきましたので、是非その点を加味して、次回までに精査していただければと思っております。</p> <p>それから、1ページ目のスライドを出していただけますか。今後のこの検討委員会の方向性ですが、1ページの左側の方に流れがありますが、今日は、左から2つ目の枠のところについてご協議いただきました。今度は真ん中の枠に入っていきますが、この方針をもう一回再整理し、再整理した方針に基づいて今度これを、具体化していくことになると思いますが、そのときにやはり、先ほど貞刈委員が言われてましたように、中核的な機能あるいはテーマというものを考えていく必要があると思います。その辺りを、案を基にして、ご議論いただければと思います。</p> <p>地元の方からは、防災機能を強く主張していただいておりますし、塚原先生をはじめ九州大学もそういうことを検討されているということですので、防災機能とどういう機能が組み合わせるとよいのかなど、今度は機能の組み合わせの問題になってくると思います。</p> <p>例えば、東京圏の中核機能をバックアップする機能と併せて、国の合同庁舎なりをこちらに移転してくるといった案や、あるいは、道州制を睨んで州都をもって来る案もあるだろうと思います。そうした機能と防災機能は、うまく組み合わせっていく可能性が非常に高いのではないかと思います。なので、今度はその機能の組み合わせ方についても、次回皆さんでご議論いただき、可能性の議論を深めていきたいと思っております。よろしいでしょうか。</p> <p>いずれにしても、課題という言葉はおそらくこのビジョンの中では、切っても切れない言葉で、課題という言葉がいくつも出てくると思います。</p> <p>ただ、課題には、大きく2つあるだろうと思います。ご意見を伺いながら思いましたが、一つは、現在地区が抱えている課題です。その課題を解決するためにこのまち</p>

	<p>づくり、この跡地利用がどうあるべきかという考えにつながります。それから逆に、この地区を将来こういうふうにして欲しい、こうありたいということを実現しようとした時に出てくる課題ですね。</p> <p>例えば、駅の話がありました。貝塚駅をもっと改造あるいは改善していく必要があるのではないか、交通インフラを強化していく必要があるのではということも、将来想定される将来ビジョンを実現していくために想定される課題と思います。大きく2つの課題がこのビジョンの構成要素の中に入ってくるだろうということを、今日のご意見を踏まえて強く思いました。ぜひ事務局の方にも、その辺を課題という一言で片付けずに、上手く整理していただきたいと思います。よろしく願いいたします。長くなりましたが、それでは次回の第3回の委員会に、また色々宿題も出ました。事務局の方にご検討いただきたいと思います。私からは以上です。</p> <p>進行は事務局の方にお返しいたします。</p>
事務局 (岡野)	<p>本日はお忙しい中、お集まりいただき、また、長時間活発なご議論をありがとうございました。以上をもちまして、第2回九州大学箱崎キャンパス跡地将来ビジョン検討委員会を閉会させていただきます。</p> <p>次回の開催につきましては、後日ご案内いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>

以 上